



資料

目次

資料-1 調査員名簿	資 1-1
資料-2 協議会設置要綱	資 2-1
資料-3 ヒアリング依頼文書	資 3-1
資料-4 所有者ヒアリング調査票	資 4-1
資料-5 職人ヒアリング調査票	資 5-1
資料-6 ワークショップ報告書	資 6-1

表1 調査員名簿

氏名	ブロック	地区	備考
1 中村 由紀男 2 石田 充利 3 秋山 元 4 寺西 博 5 中田 健治 6 高島 ゆかり 7 伊達 剛	東 部	賀 茂 伊 東 熱 海 沼 津 沼 津 沼 津 富 士	サブリーダー
8 早川 眞 9 川嶋 章弘 10 瀧 康史 11 鈴木 武 12 酒井 信吾 13 石川 春乃 14 亀山 靖生 15 山崎 暢之 16 松本 年央 17 岡山 実夫 18 栗田 仁 19 岸 裕之 20 油井 眞吾 21 永田 好美 22 長谷川 正男	中 部	清 水 清 水 清 水 静 岡 静 岡 静 岡 静 岡 静 岡 静 岡 静 岡 静 岡 静 岡 志 太 志 太	サブリーダー サブリーダー リーダー
23 村松 浩次 24 平松 郁生 25 杉山 美奈子 26 鈴木 敬雄 27 深田 義雄 28 中谷 悟 29 中村 利夫 30 柳田 誠人 31 小笠原 徳明 32 伊藤 哲郎 33 平野 克典	西 部	小 笠 小 笠 小 笠 中 遠 中 遠 中 遠 浜 松 浜 松 浜 松 浜 松 浜 松	サブリーダー
西山 洋雄 塩見 寛 山崎 勝弘 木村 精治 倉田 裕司	東 部 中 部 東 部 中 部 西 部	三 島 静 岡 富 士 清 水 中 遠	景観整備機構 〃 〃 東部ブロックリーダー 〃 〃 西部ブロックリーダー

「歴史的建造物の保全・活用協議会」設置規程

第1（名 称）

名称は、歴史的建造物の保全・活用協議会（以下、協議会）とする。

第2（目 的）

協議会は、住民（所有者等）、行政（建築行政、景観行政、文化財行政）、専門家（建築士、職人）によるネットワークの構築について検討し、平常時・非常時における歴史的建造物の保全等に関する対応について協議することを目的とする。

第3（協議事項）

協議会は、次の事項について協議する。

- 1) 住民、行政、専門家との連携による歴史まちづくりのネットワークの構築
- 2) 平常時・非常時における歴史的建造物の保全等に関する対応
- 3) 歴史的建造物の維持・保全・活用に関する課題
- 4) その他、上記の事項に関連する事項

第4（運 営）

公益社団法人静岡県建築士会に事務局を置き、景観整備機構が必要な業務を行う。

第5（組 織）

協議会は、静岡県、静岡市、浜松市、三島市、富士市、藤枝市、磐田市の建築、景観、文化財の担当部局、及び公益社団法人静岡県建築士会により構成する。

- 2 協議会に座長を置き、公益社団法人静岡県建築士会景観整備機構副代表が務める。
- 3 協議会には、必要に応じて、構成員以外から意見等を求めることができるものとする。

第6（経 費）

協議会にかかる運営経費は、公益社団法人静岡県建築士会がすべて負担する。

第7（その他）

協議会の運営にあたって、ここに定める他の事項は、公益社団法人静岡県建築士会の定款及び細則等に準拠する。

第8（付 則）

この規程は、平成24年10月16日から施行し、平成24年度限りとする。

別表

	担当課
静岡県	くらし・環境部 建築住宅局 建築安全推進課
	交通基盤部 都市局 都市計画課
	教育委員会 文化財保護課
静岡市	都市局 建築部 建築指導課
	都市局 都市計画部 都市計画課
	生活文化局 文化スポーツ部 文化財課
浜松市	都市整備部 建築行政課
	都市整備部 土地政策課
	市民部 文化財課
三島市	都市整備部 建築指導課
	都市整備部 都市計画課
	教育委員会 文化振興課
富士市	都市整備部 建築指導課 審査指導担当
	都市整備部 建築指導課 景観推進担当
	教育委員会 文化振興課
藤枝市	都市建設部 建築住宅課
	都市建設部 都市政策課
	市民文化局 文化財課
磐田市	建設部 建築住宅課
	建設部 都市計画課
	教育委員会 文化財課
公益社団法人 静岡県建築士会	景観整備機構

建物所有者の方々へ

公益社団法人 静岡県建築士会

歴史的な建物に対する意見聴取のお願い

歴史的な建築物は、年月を越えた時間の積み重ねやそこに住まい使われた人たちの思いが感じられ、大変貴重な資産であると思っています。

しかし一方で、建物を維持・保全していくには、老朽化や地震等により被災することも考えられ、多くのむずかしさがあることも感じています。

静岡県建築士会では、これらの歴史的な建築物について、建築的、文化的な価値を評価して後世に伝えていくために、建物の維持・保全に関する課題や問題を洗い出し、また建物を所有し住まわれている方々の建物への思いや悩みなどをお聞きして、建築物の保全に生かしていきたいと思っています。

今年度、国土交通省から助成採択を受けて、この調査を実施するものです。

次のようなことを、お聞きしたいと思っています。本音のところをお話ししていただければ、大変助かります。よろしく願いいたします。

記

- 建物について、どのように感じておられるでしょうか
- 建物を維持していることに対して、困っていること・悩んでいること
- 建物を、将来、どのようにしたいと思っておられるでしょうか
- 地震等により被災したとき、どのような不安をお持ちでしょうか、またどのように対応されようとしているでしょうか、現時点で思われていること
- 建築士会では歴史的建築物のよろず相談窓口を設けて、平常時や地震等の非常時に、一般の方々への対応をしたいと考えています。このことに対する要望・意見・注文等ありましたら、お聞かせください。

なお、この調査は静岡県建築士会によるもので、個々の調査の内容を他のことに使用したり公表することはありません。

連絡先

(公社) 静岡県建築士会

事務局 tel 054-254-9381

静建士 第 号
平成 24 年 10 月 日

静岡県木造建築工業組合
理事長 小林 明世 様

公益社団法人 静岡県建築士会
会長 西山 昌行

歴史的建造物の保全・活用のためのネットワーク構築について（依頼）

日頃、本会活動において、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、本会は、今年度国土交通省から委託を受け、別紙 1, 2 のような「歴史まちづくりネットワーク構築検討調査」を進めています。歴史的建造物の維持・保全・活用のために住民、専門家、職人、行政等との連携によるネットワークを構築し、平常時・非常時における歴史的建造物の保全等に関する対応について、協議・連絡調整できる体制づくりを促進することを目的としています。

つきましては、貴組合の大工職人の方々に、歴史的建造物の修繕、改修等に携わってこられた御経験をもとに、工事施工に関する感想、問題点、課題などご意見を伺い、平常時・非常時における歴史的建造物の保全等に関する対応について検討を行い、対応マニュアルを作成したいと考えています。

そこで、上記ご経験をお持ちの貴組合員をご紹介頂きたくお願いする次第です。お忙しい中、ご迷惑をお掛けし誠に申し訳ありませんが、何卒ご配慮の程、お願い申し上げます。

なお、ご意見聴取には、本会会員が貴組合員の方々に直接ご連絡して、出向きたいと思っています。よろしくお願いいたします。

記

1 意見聴取の時期 平成 24 年 10 月中旬～11 月

2 意見聴取の時間 1 時間程度

3 事務局 静岡市葵区御幸町 9-9

公益社団法人 静岡県建築士会 tel.054-254-938

名 称	A会議所		
所在地	熱海市渚町		
所有者または管理者 連絡先	A会議所		
構造・規模・形式等	RC造2階建て陸屋根塔屋付104.7坪		
竣工年	昭和29年	設計者・施工者	不明
所見 創建当時は横浜銀行の支店として建築された建物なので外観をギリシャ風に洗い出しで仕上げであり昭和の看板建築の典型的なものである。内部はピロティをふさいでしまったため。建築当初の面影はないがカウンターや出入口建具は建時のものである2回会議室天井も漆喰仕上げ格天井で吹き抜け柱の仕上げがそのまま残っている			
① 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） 市街地の中心部にあるクラシック建築で外観非常に洗練されているので誇りに思っているのでこの建物を何とかこのまま残したい。 事務所としては作りが古いので使い勝手が悪い。 外観デザインは重厚でいいので誇りに思っている。			
② 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること 雨漏り・外壁上塗りの剥落等維持修繕に費用が掛かる。 耐震上問題がある建物なので何とかしたいが費用の問題や内部構造が柱だらけになってしまうので、建物として使用できなくなってしまう。			
③ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） 商工会議所はほかのところに近代的なものを建て替えてうまく補強できれば、ギャラリー・ホール街歩きの拠点にできればと思っている。			
④ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） ぜひお願いしたい			

調査年月日：平成24年11月6日

調査者（ 秋山 元 石田 充利 ）

- ⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）
努力して立ち上げていただきたい

写真



外観-1



外観-2



内部 2F 会議室天井

調査年月日：平成 24 年 11 月 6 日

調査者（ 秋山 元 石田 充利 ）

名 称	T菓子店		
所在地	熱海市銀座町		
所有者または管理者 連絡先	M氏		
構造・規模・形式等	木造2階建て約40坪		
竣工年	昭和19年	設計者・施工者	京都の宮大工
所見	<p>市街地の中心部に位置する木造2階建ての総檜づくり寺建築風の菓子店の店舗 内外意匠は出組格天井など社寺で使われている技法で仕上げられている</p>		
⑥ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>市街に中心部の角の店舗なのでこの建物がランドマーク的になっていて誇りに思っている。 わざわざ京都より宮大工を泊りがけでよんで建築させた。 熱海の大火で焼け残った数少ない貴重な木造建物である。 内部格天井は小組が施されている。 屋根棟部分に乗っていた金剛力士像2体を店内に飾ってある。</p>		
⑦ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>建築してから年数を経ているので汚れてきて困る。 2階欄干部分に鳥が止まりふんでしてよごしてしまう。 メンテナンス（洗い等）出来る職人がいないので京都より呼んでいる。</p>		
⑧ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>できればこのままの形で営業を続けたい。 耐震補強・建て替えは考えていない。 柱などを塗装するかどうか迷っている。</p>		
⑨ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>登録をお願いしたい。</p>		

調査年月日：平成 24年 11月 6日

調査者（秋山 元 石田 充利）

⑩ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

緊急時に相談できる窓口があるとよい。

写真



外観



入口上部臺股等くみもの



内部小組天井屋根上にあつた金剛力士像が正面に飾られている

名 称	Y 旅館		
所在地	伊東市東松原		
所有者または管理者 連絡先	Y 氏		
構造・規模・形式等	木造 3 階建て総面積 2 3 0 坪（一部地下あり）		
竣工年	昭和 13 年	設計者・施工者	不明
所見	<p>昭和初期に建築された木造 3 階建ての旅館、客室内のレイアウトは同年代に建築された付近の旅館によく似ているので時代の旅館建築流行であったとかがえられる。</p>		
⑪ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>1 階～3 階までを 1 0 本のヒノキの通し柱で（直径約 3 0 c m）支えている。 創業者の妻の実家が材木商であったので床の間天井などに銘木がふんだんに使用されている。建具等も非常に手が込んだ物を使用している。 旅館敷地内より湧出している温泉を使用した源泉かけ流しの浴室。 創業当時より使用されている長火鉢などの家具調度。</p>		
⑫ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>お客様が建具などをこわしてしまった修繕用の材料が手に入りにくい。 伝統工法や古い建築に精通している職人がすくない営業上客室を長く開けられないので修繕の工期がかけられないのでやっつけ仕事になってしまうこともある。 木造なのでエアコンのききが悪く又隣の客室の音が聞こえるなどの苦情がある。 客室個別にトイレ浴室を設置したいが困難である。 文化財に登録されると改修や改造がやりにくく営業上不利になる。</p>		
⑬ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>歴史ある建物なのでその特徴を生かした営業をしたい。 耐震補強建て替えは考えていない。 古い建築の好きなお客様に泊まっていただけるようにしたい。</p>		
⑭ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>ぜひ登録をお願いしたい。</p>		

調査年月日：平成 24 年 11 月 6 日

調査者（ 秋山 元 石田 充利 ）

- ⑮ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

すばらしいと思うので頑張ってやってほしい。

写真



玄関



2F 広間



1F ホール赤く塗装してあるのがヒノキ通し柱

調査年月日：平成 11 年 11 月 6 日

調査者（秋山 元 石田 充利）

名 称	寄り合い処		
所在地	賀茂郡西伊豆町		
所有者または管理者 連絡先	Y氏		
構造・規模・形式等	木造2階建て		
竣工年	明治43年	設計者・施工者	T屋というやごの大工
<p>所見</p> <p>明治初期には、西洋館ににせて造りあげた洋風建築が多い中、その技法を少し見せながらの伝統的技法・手法の和風建築。 デザインされた、小屋裏換気。 伊豆の長八にも見劣りしない、玄関内部天井の鏝絵。 内部の建具にはめ込まれている、美しいガラス。</p>			
<p>⑩ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）</p> <p>子供のころから、生活していたことによる愛着。 伊豆の長八にも見劣りしない、玄関内部天井の鏝絵。 家が広すぎて、修理、修繕に時間的、予算てきにも手が回らない。</p>			
<p>⑪ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること</p> <p>家が広すぎて、修理、修繕に時間的、予算的にも手が回らない。</p>			
<p>⑫ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）</p> <p>この建物を、誰が引き継ぐかによって、建物の保全、修理、修繕等によって考え方が変わってくる。</p>			
<p>⑬ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）</p> <p>災害時の連絡：可 建築士会の登録リスト：可</p>			

調査年月日：平成 24年 9月 25日

調査者（ 中村 由紀男 ）

⑳ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

町のお医者のように、建築物の修理、修繕等について相談しやすい。

写真



外観

名 称	S 医院		
所在地	賀茂郡松崎町		
所有者または管理者 連絡先	S 氏 5		
構造・規模・形式等	木造 2 階建て		
竣工年	昭和 2 年	設計者・施工者	松原という大工
所見	<p>明治初期には、地方のお役所、医院等に、土地の大工や棟梁が自分が身につけた日本伝統の技術で西洋館ににせて造りあげた洋風建築が多いが、この地における和と洋の建築様式を取り入れた代表例。</p>		
21 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>長年、この建物で生活してきたので、愛着がある。 家が広すぎて、清掃、修理、修繕が大変。</p>		
22 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>家が広すぎて、又、高齢であることにより、修理、修繕に手がまわらない。 子供が東京に居るため、この建物をどのように管理するか。</p>		
23 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>なるべく、このまま、この建物を維持していきたい。</p>		
24 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>災害時の連絡：可 建築士会の登録リスト：可</p>		

調査年月日：平成 24 年 9 月 26 日

調査者（ 中村 由紀男 ）

25 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

建築物の修理、修繕等について相談しやすい。

修理、修繕等についての補助金等がありますか。

写真



外観

名 称	T邸		
所在地	静岡県駿東郡清水町		
所有者または管理者 連絡先	T氏		
構造・規模・形式等	木造 二階建て 瓦葺		
竣工年	昭和 12 年	設計者・施工者	不明
所見	<p>湧水で有名な柿田川のそばに立つ、2階建ての木造住宅であり、現在は観光客が多く訪れる「I館」の一角に存在する。</p> <p>一階部分は和室が繋がる大広間として、観光客の食事処として活用されている。</p> <p>建物の維持管理は厳しいようだが、歴史的文化遺産として実際に使用されて観光客の評判も良い。</p>		
26 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>自分が生まれて育った家なので愛着が深い。</p> <p>親が福井県武生市の出身で、この建物を建てた大工もそこから呼んで作らせた。</p> <p>造りは中京間と聞いている。</p>		
27 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>維持管理に費用が沢山必要で困っている。</p> <p>台風での被害を受けた箇所は修理は保険でまかなった。</p> <p>付属する庭園の維持管理も大変である。</p> <p>茶室は屋根を葺き替えた。</p>		
28 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>観光施設として活用したい。</p> <p>敷地全体として建物を複合的に整備したい。</p> <p>文化財指定も受けたいと考えている。</p> <p>耐震補強には関心がある。</p>		
29 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>災害時の連絡については可能だ。</p> <p>登録リストへの掲載は可能だ。</p>		

調査年月日：平成 24 年 10 月 10 日

調査者（中田 健治 寺西 博）

30 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

相談窓口が出来ることはありがたいと思う。

写真



外観

名 称	T東事務所		
所在地	静岡県駿東郡清水町		
所有者または管理者 連絡先	Y氏		
構造・規模・形式等	木造 二階建て 外壁洗い出し仕上げ		
竣工年	大正 13 年	設計者・施工者	不明
所見 地元の人から「西洋館」と呼ばれ、親しまれている。 正面入り口の「T事務所」の看板は右から左の順に書かれており、往時を偲ばせる外観となっている。 道路拡張にかかっている、撤去解体の危機でもあるが、住民の保存への要望も高い。			
31 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） 私（Y氏）の父親が建てたこの建物は、当時、人々から「西洋館」と呼ばれて親しまれていた地域のランドマークである。 その頃、始まった生命保険会社の草分け的な建物で、歴史的にも価値が高い。 左官工事は名人と言われた多家左官が施工して、玄関の床などは現在もひび一つなく堅牢である。 通風の工夫がされた間仕切壁下部の開口部など手がこんだ造りである。 現在までも、書道教室などにも利用、活用されてきた。			
32 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること 修繕には、やはり費用が多くかかることに苦労があった。			
33 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） 道路の拡張が計画されていて、解体撤去の予定であるが、多くの人々から「ぜひとも保存しておいて欲しい」との声も多く寄せられている。 所有者としても残したい気持ちは大きいですが、例えば曳家して保存するにしても、その工事費や敷地の整備などに莫大な費用が予想されているので現状では困難である。			
34 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） 災害時の連絡は可である。 登録リストへの掲載は可であるが、道路拡張に伴い、近日中に解体撤去の可能性もある。			

調査年月日：平成 24 年 10 月 25 日

調査者（寺西 博 中田 健治）

35 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

窓口が出来ることはとても有り難い。歴史的建造物の所有者の高齢化も進み、後継者の問題で困ることも多く、建物の解体にもつながっている現状を救う為にも役に立つと思う。

写真



外観

調査年月日：平成 24 年 10 月 25 日

調査者（寺西 博 中田 健治）

名 称	S 銅鉄		
所在地	富士市吉原		
所有者または管理者 連絡先	S 氏		
構造・規模・形式等	木造 2 階建 店舗併用住宅		
竣工年	昭和 7~8 年頃	設計者・施工者	S 氏 (S 工務店)
所見			
<ul style="list-style-type: none"> ・吉原と富士宮を結び、かつては鉄道馬車が通っていたという大宮街道（旧富士宮街道）沿いに建つ 2 階建ての店舗併用住宅。 ・S 銅鉄は大正 2 年創業、昭和 16 年会社組織とした会社で、現在ここでは金物の卸売りをしている。 ・建物 1 階は店舗として使用され、通りに面して大きな開口部が設けられている。 ・1 階奥と 2 階部分は住居として使用されており、1 階奥の住居部分は後に増築された。 ・外壁は杉の下見板貼り、屋根は瓦葺、雨樋や破風板は銅製で、銅の板金の色の風合いは特に目を引く。 ・瓦には鯉の彫り物がみられ、火事に対する火避けのデザインが施されている。おそらく明治期に起きた大きな火事に対する名残と考えられる。 ・1 階、2 階とも外観に見られる出し桁造りが特徴。 ・出し桁部分の大きな梁が、建物のがっしりした造りを物語っている。 ・軒先及び破風板、外装の下見板に劣化が見られ早急な補修が必要と思われる。 			
36 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）			
<ul style="list-style-type: none"> ・冬寒く、夏涼しい。 ・所有者は幼少から住んでいる建物に愛着があり、改修等をする気は持っていない。 ・自慢：梁の太さ、庇（出し桁構造）、屋根（銅板葺）。 ・趣が有る。 ・不満：特になし。 			
37 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること			
<ul style="list-style-type: none"> ・雨漏りはあるが、修繕はその都度しているので、それほどひどくはない（悩みとまではなっていない）。 ・木部の補修はきりが無い。 ・維持していく上での問題は特に感じていない。 			
38 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）			
<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持で当分はこのまま使用する（商売が続く限りは残したいと考えているが、その後は不明）。 ・改修や建替えの予定なし（耐震補強をする予定もない）。 ・地震が来ると揺れはあるが、がっしりとしたつくりなので、建物に被害はない。 ・ある程度の補強はなされている。 			
39 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）			
<ul style="list-style-type: none"> ・修繕が必要な場合は、向かい側のお宅がこの建物を建ててくれた大工であるので、いつもそこに依頼している。 ・災害時の連絡、建築士会の登録リストへの掲載 可。 			

調査年月日：平成 24 年 11 月 6 日

調査者（ 山崎 勝弘 伊達 剛 ）

40 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）
文化遺産の連帯ができるとうれしい。

写真



北東より



北西より



北東より 1階屋根拡大



1階正面出桁



内観 入口より



内観 奥より



内観 入口付近

調査年月日：平成24年11月6日

調査者（山崎 勝弘 伊達 剛）

名 称	D家住宅		
所在地	富士市神谷		
所有者または管理者 連絡先	D氏		
構造・規模・形式等	木造2階建		
竣工年	明治15年 増築明治34年	設計者・施工者	不明
所見	<p>・ D家は掛川市伊達方から当地に分家し、蘭学の眼科医として江戸末期まで続いた家柄。</p> <p>・ 東海道の古道、根方街道に面しており、周囲を板塀で囲んだ屋敷構えで、現在残る建物は9代目文三氏の時代に建てられた。</p> <p>・ 本玄関と脇玄関を隣接させ、客と家人の動線を分けている。本玄関からは座敷へと畳の間が続く。屋敷の中心に茶の間がありここから座敷、台所、隠居部屋へとそれぞれへ動線が広がる間取りとなっている。</p> <p>・ 座敷は十畳二間で南北両側の縁側からの庭の眺望は素晴らしい。造作材には梅が使われているのが特徴で、天井板には神代杉が使われている。</p> <p>・ 建具は格子を主としたデザインで全体が統一されている。襖には地域を代表する明治の画家、鈴木香峰の山水画が見られる。</p> <p>・ 武家様式を残す近代和風建築で、建物と庭園が一体となった空間が素晴らしい。残すべき建築である。</p>		
41 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏は涼しくて良いが、冬は寒く厳しい。 ・ せいせいと住むことができる（マンションのような息苦しさがない）。 ・ 家柄を建物に見ることができる。 ・ 自慢：座敷の欄間、床の間の鳥の子、天井（神代杉）、建具の繊細さ。 ・ 不満：掃除の大変さ、障子の貼替、箱階段による上り下り。 		
42 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修理箇所が多いこと、どこを直すにしてもそこだけとはいかない。 ・ 地震によるゆがみ、ヒビ割れ等の発生。 ・ 掃除。 ・ 屋根に使われている土が風で室内に落ちほこりが多い。 ・ 庭の手入れが大変。 		
43 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瓦は葺き替えたいと思っている。 ・ できるなら全体を残したいが、少なくとも座敷だけは残したいと思っている。 ・ 庭園の一部は売りに出す予定（固定資産税の問題）。 		
44 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瓦の補修については、いままで静岡の業者に頼んでいたが、近いところで安いところがあれば知りたい。 （大工や水道工事については知人がいるので、そちらにお願いしている）。 ・ 災害時の連絡、建築士会の登録リストへの掲載 可。 		

調査年月日：平成24年11月1日

調査者（山崎 勝弘 伊達剛）

45 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

地域の文化遺産の連帯ができると嬉しい。

写真



南東より



南西より



北東より



座敷



内玄関



箱階段



座敷欄間

調査年月日：平成 24 年 11 月 1 日

調査者（ 山崎 勝弘 伊達 剛 ）

H24 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査		歴史文化資源 調査票		静岡市清水区	※2-1
名称	缶詰記念館				
所在地	静岡市清水区港町				
所有者または管理者 連絡先	所有者：S株式会社 管理者：一般財団法人 S博物館				
構造・規模・形式等	木造2階建一部平屋				
竣工年	昭和4年以前	設計者・施工者	不明		
所見 <p>所有者の理解があり、当初外壁塗装替えから発展し耐震補強工事に至るかなり恵まれた環境にある。本館に付属した施設とし「缶詰記念館」は一般公開されてる。両者一体として清水港湾博物館を形成し良好で安心・安全に維持された施設といえる。</p>					
① 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） <p>清水港輸出産業、お茶に加え昭和初期マグロツナ缶が加わり重要な産業に発展した。缶詰の歴史を語る遺産が少ない中そのシンボルの建物として大事にしたいと思っている。静岡県のごい産業遺産Ⅲに紹介され、最近では県外の訪問者が増え、缶詰に特化した珍しい博物館として位置づけられている。</p>					
② 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること <p>特になし</p>					
③ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） <p>本年（平成24）春、耐震補強工事を完了、耐震性への不安がなくなり、安心して一般公開ができる状況に満足している。 耐震工事・丸鋼ブレース構法 ・腐朽材の一部取替え（80～90%は原型部材残存） ・庇飾り、瓔珞は損傷が多かったので、写真をもとに原型復旧した S博物館本館との接続方法に弱点がある。</p>					
④ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） <p>火災報知設備・防犯設備等本館と連動管理が自前でできており、特別な不安はない。</p> <p>登録については、「管理者」の立場として支障はないと考えるが、その時は「所有者」に県の機関より主旨説明を伴った文章依頼が必要と考える。</p>					

調査年月日：平成24年12月7日 調査者（川嶋章弘 鈴木武 瀧康史 早川真）

⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

公の物件は別として、個人所有物は個人情報保護・財産の情報流出が懸念される。その辺を慎重に検討する必要がある。

写真



南西面・右奥が本館（補強前）



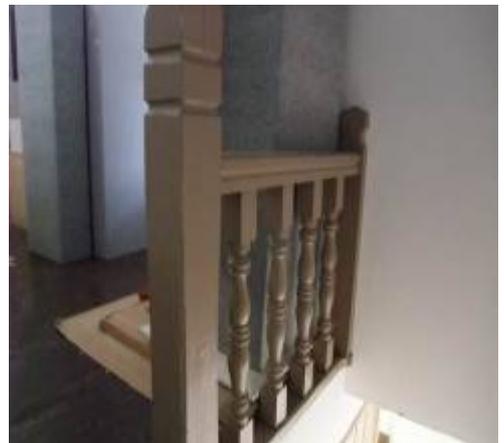
南面（補強後）



西北面



入口部庇（瓔珞飾り）



名 称	S (魚雷) E 壕		
所在地	静岡市清水区三保		
所有者または管理者 連絡先	H氏		
構造・規模・形式等	RC 平屋建て		
竣工年	1945	設計者・施工者	清水海運航空隊の練習生
所見 清水区三保にある、T大学Mランド内ミニチュアランドの東側、国道付近、屋根と外壁の一部が出ている。清水区の三保には、世界第二次大戦の時「清水海軍航空隊開隊」があった。そして「海軍特別攻撃隊」の基地が建設され、魚雷艇（震洋艇）が配備されていた。この車庫は、その魚雷艇搭載の爆薬の格納庫として建設された。この壕は現在空家になっている。他に 8 棟三保に存在する。長手方向約 7m 幅約 4m 高さ約 3.5m の RC 平屋建ての現在空也（スノーボード置場）になっている。			
⑥ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） 民地と官地に跨って建っている。 民地方は、私が管理しているが実際の所有者は、誰だか不明。			
⑦ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること 修繕をしたくても金が無い。 現在雨が降れば床に水がたまる。 以前この壕を取り壊そうと、行政に相談したところ、市職員・市会議員等が見に来た。しかし予算が着かず立ち切れになってしまった。			
⑧ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） 第二次世界大戦の証明として残して貰いたい。 予算を付けて、修繕してもらいたい。			
⑨ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） 残してくれるのであれば、非常時に連絡できる機関（行政・民間を問わず）を設置してもらいたい。			

静岡市清水区	※2-2
--------	------

⑩ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

写真



東側から眺める。



東南側から眺める。



空家内部。



屋根厚 RC45cm。鉄筋がみえる。RC造。

調査年月日：平成 24 年 10 月 4 日

調査者（川嶋章弘・瀧康史・早川 眞）

H24 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査

歴史文化資源 調査票

静岡市清水区

※2-3

名 称	海軍航空隊開隊兵舎		
所在地	静岡市清水区三保		
所有者または管理者 連絡先	K氏		
構造・規模・形式等	木造平屋建て		
竣工年	昭和 19 年 頃	設計者・施工者	不明
所見	<p>清水区三保のT大学運動場付近、屋根はトタン葺・外壁下見板張り白っぽい色で、住宅が散在する一角に建っている。 兵舎として最後の建造物との事。 当時、(炊飯場) 食堂と使用されていた</p>		
⑪ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>雨が漏るので自分で補修している 地震が来るとゆさゆさ揺れて怖い。</p>		
⑫ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>K氏（70歳半ばの年配の方）の父親が、この建物を購入したと言っているが、権利書が無い。 K氏は、父親が亡くなっても、自分のものになるかわからないと思っている。 又この土地と建物が官から払い下げている物か心配していた。</p>		
⑬ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>この建物は残して貰いたい。（私の住まいとしても）。 たまに、海兵隊に入隊していた人が、昔をしのんで訪ねてくる人がある。 残してもらおうよう検討して欲しい。</p>		
⑭ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>災害時の連絡リストを作成し、管理する機関を希望する。</p>		

調査年月日：平成 24 年 10 月 4 日

調査者（川嶋章弘 鈴木武 瀧康史 早川眞）

- ⑮ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

清水海軍)航空隊開隊兵舎写真



北東側から眺める。



北面の北側を眺める。



南東側から眺める。



西側から眺める。

調査年月日：平成 24 年 10 月 4 日

調査者（ 川嶋章弘 鈴木武 瀧康史 早川真 ）

H24 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査		歴史文化資源 調査票		静岡市葵区	※2-4
名 称	Nクリニック				
所在地	静岡市葵区西草深町				
所有者または管理者 連絡先	M氏				
構造・規模・形式等	木造 2 階建て・明治の洋館				
竣工年	明治 30 年 頃	設計者・施工者	不明		
所見 明治の洋館で、この辺りには、何軒もあったとの事。 今となっては、唯一残った貴重な建物。（ただ、かなりの部分を増改築していると思われる） 日本平に移築されたE邸は、お隣の牧師館だったとの事。					
⑩ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） ・3 世代にわたって医院として、住宅として使用してきたので、大切に思っています。					
⑪ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること ・木造 2 階建てなので、維持に気がつかいます。 ・地震対策で、瓦屋根をやめて軽くしたり、窓が古くなりアルミサッシにしました。 ・昔ながらの、上げ下げ窓、漆喰壁、建具類など、そのままにしたいけども、直せる職人さんがいなくなりました。					
⑫ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） ・3 世代にわたって医院として使用したため、かなり改装してしまいました。 ・今後はできるだけ現状を維持して、昔ながらの部分を保存しながら、住み続けたいと思います。					
⑬ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） ・百年以上使用したので、家としての使命は果たしたと思います。 ・木造なので、耐震がどの程度可能か分かりません。 ・何が何でも現状保存をと、考えていません。 （・破損などした場合、そちらへご連絡が必要なのではないでしょうか？……のコメント有り）					

調査年月日：平成 24 年 10 月 12 日

調査者（ 酒井信吾、松本年央、山崎暢之 ）

⑳ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

- ・古い建物や町並みの保存は、とても大切なことだと思います。
- ・これからの観光などの助けになる場合もあると思います。

写真



外観 1



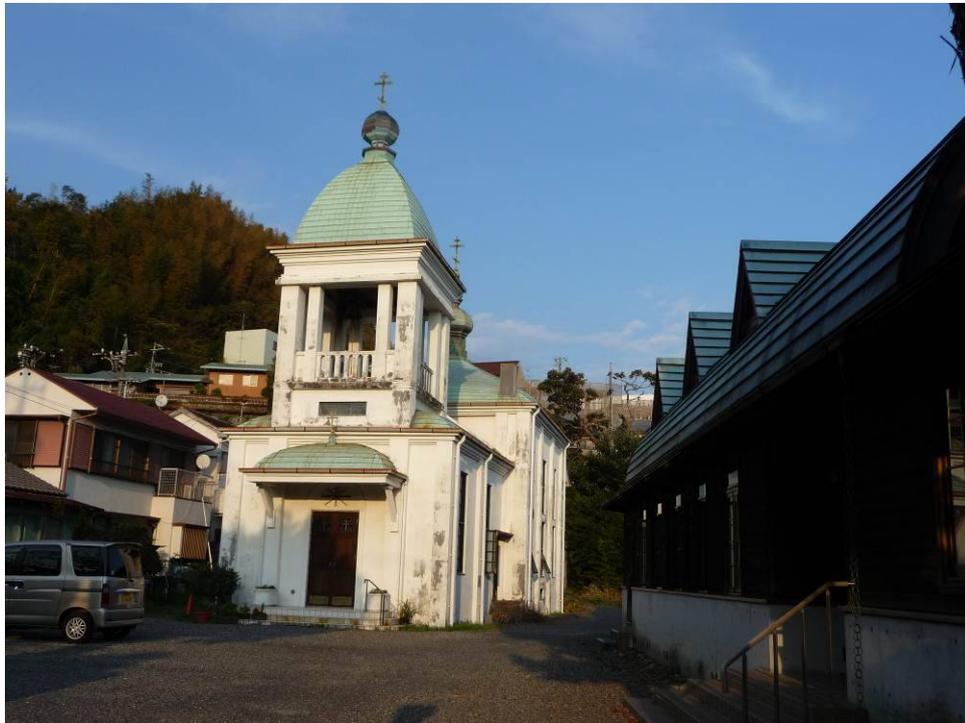
外観 2

H24 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査		歴史文化資源 調査票		静岡市葵区	※2-5
名 称	S 教会庇護聖堂				
所在地	静岡市葵区春日				
所有者または管理者 連絡先	T 司祭				
構造・規模・形式等	補強コンクリートブロック造平家建て（柱と梁のみ鉄筋コンクリート造）				
竣工年	昭和 34 年	設計者・施工者	不 明		
所見	<p>上部にドーム型の塔を持つ異国情緒あふれる建築物である。平家建てであるが立ちが高く、地域のシンボルになっている。</p>				
21 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>築 50 年以上経過しているこの建物は信者達にとっても半世紀を共にしており強い愛着を持つ者も多い。 内部の壁に埋め込まれたイコン（正教会が使用する絵画）は大変価値のある貴重なもので後世に残していきたいものである。</p>				
22 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>建物自体の老朽化が進み、雨漏りもひどい。耐震診断もしたが、大地震は勿論のこと平常時においても倒壊の危険がある。月に数回の礼拝時など人が集まった時に、万一の事故が起きることが今もっとも心配である。</p>				
23 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>老朽化については、15 年位前から心配され、建設委員会をつくり討議を繰り返してきた。気持ちとしては現在の形状の外観のまま残したいという意見も多かったが、詳しく専門業者に頼んで調査した結果、全面的に改修が必要であり新しく建て替える以上に費用がかかることがわかった。同じ規模で建て替える費用さえもきびしいのが現状なので、規模を縮小して建て替えるか、いっそのことやめてしまうか（別棟に木造の信徒会館があり礼拝はそちらを使用）現在協議中である。 いずれにしても、取り壊す事は決定している。</p>				
24 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>取り壊す事が決定しているため無回答。</p>				

- 25 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

取り壊す事は決定しているため無回答。

写真



外観 1



外観 2

名 称	D開山堂		
所在地	静岡市葵区		
所有者または管理者 連絡先	T氏		
構造／規模・形式等	入母屋八つ棟造り向拝軒唐破風付 屋根 銅板葺 三間四面堂向拝・回廊付 裏下屋庇付		
竣工年	昭和五年	設計者・施工者	設計 西野裕作、大工 原川金次郎、彫刻師 伊藤芳高
所見	<p>身舎・向拝の枝割・木割は四天王寺流の奥義「匠明」にのっとり設計・施工された建物ではと思われる。かなりの技術力を持った設計・施工者の作品におもえる。斗供の六枝掛けは、はっきりと見てとれる。</p> <p>また、向拝正面部虹梁上、龍の彫刻、唐破風「兎（う）の毛通し」（懸魚に相当する部分）に鳳凰の彫刻、実にみごとな出来栄である。木鼻・虹梁下、籠彫りの彫刻。彫刻の施工者も高い技術力を持っていたと思われる。昭和初期の建物として静岡市内では代表的な建物の一つに挙げられる。（詳細な実測調査をお願いしたいものです。）</p>		
26 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>建築種は開山堂であり、太吾上人の等身大木像を祀っている。</p> <p>開山堂とは、本来、開山の僧の位牌を安置する施設である。</p> <p>ここでは、開山の祖に続いて、代々の納骨堂でもあり、いわば「大きな仏壇」といえる。</p> <p>建築種としては霊廟建築の範疇に属す。</p> <p>向拝柱をつなぐ虹梁両端下部にある「籠彫り」彫刻は、希少価値がある。</p> <p>上記虹梁上部の3匹の龍の彫刻も他では見られない意匠である。</p>		
27 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>開山堂それ自体は、寄進によって建設されたが、当代になってから、氏子なし、檀家なしの宗教法人であり、寄付も受け付けていない。</p> <p>過去に白蟻被害あり、修理等のために屋根に登った職人さんに踏まれて、一部の銅版のハゼがつぶれて雨漏りがしたことがあった。今のところは自力で維持管理している。</p> <p>境内の大樹の枝おろしも自力で行っている。</p> <p>代替わり（当代の孫にあたる高井善啓氏が後継者に予定されている）後には、また別の方針となるかもしれない。</p>		
28 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>建築的、文化財的価値を認められているので、将来に向かってしっかりと維持管理を行っていききたい。</p> <p>過渡的な処置として対症療法的に、向拝部の虹梁にダンパーを設置しているが、本格的な耐震補強でないことを認識している。</p> <p>表から見えにくい部分に関しては、可能な限り筋かいを入れている（1970年以降古谷建設による）。</p>		

29 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）

地盤の状況に恵まれているため、近い過去の地震において、大きな揺れ、目に見える被害は認められていない。しかしながら、自家努力でできる範囲で、建築の維持管理に最大限の用意を講じている。

非常時に関する備えという趣旨には賛同できる。

建築士会の「歴史文化資源」リストへの登録に関しては、異存はない。

30 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

○情報の交流は、基本的に大切にしたい。

○建築遺産の維持管理の仕方について知恵を結集することが好ましい。

○活動が形式的とならないように気を付けたい。

調査年月日：平成24年10月25日

調査者（栗田 仁・岡山実夫）



正面 東側



側面 北側



正面、向拝部分、唐破風下部の「兎(う)の毛通し」。正面、虹梁の上に竜の彫刻



同左、正面左側からの見上げ

名 称	S 邸		
所在地	静岡市葵区門屋		
所有者または管理者 連絡先	S 氏		
構造・規模・形式等	木造 2 階建		
竣工年	約 120 年前	設計者・施工者	不明
所見 約 120 年前に建てられた木造 2 階建ての建物。 農器具庫、蔵、ミセ（現住居）物置からなる約 520 m ² の大きな住宅 外壁は杉羽目板で三角形の押棧が美しい			
31 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） プライバシーが無かったり、使い勝手が不便だったり寒さはいまだに感じるが、この頃は他の家に行った時などに、自分の家との違いを感じるようになってきて建物への愛着を感じるようになってきた。 一方で人寄せするにも広い部屋があるので重宝したりしている。			
32 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること 台風や風の強い時に砂や埃が部屋の中に入ってくる。 建物全体で修繕をしたいと思うが、費用や工法など難しい面もある。 改装した時に柱がいろいろな場所にあるのでプランの作成に困った。 塗り壁が傷んできている。 時々の小規模修繕の際、全体との調和とか方向性について相談する人がいない			
33 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） 今のところ、この建物を壊して建て替えるという事は考えていないが、代が変わって行った時にはどうなるかわからない。 耐震診断や補強はまだ実施してはいるが、改装した時に一部鉄骨を入れてある。 補修をしてもらっている大工さんも残せるところは残したいね、という話は出たりしている。 屋根は瓦を葺き替えた時に土を降ろしている。			
34 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） 特に考えてはいるが、タンス等の転倒防止対策は行っている。 リストへの掲載はして頂いて構わない			

35 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

相談窓口を設けることは良い事だと思う。

ただ、改修や修繕において規制が設けられれたりして自由が利かなくなる事は困る。

写真



外観



内観

調査年月日：平成 24 年 11 月 18 日

調査者（亀山靖生 岸裕之）

名 称	旧 T 酒造酒蔵群 + 住宅		
所在地	静岡県焼津市上新田		
所有者または管理者 連絡先	T 氏		
構造・規模・形式等	【住宅】木造平屋 木造軸組伝統工法 瓦屋根漆喰押え 【酒蔵群 主要な 3 連棟】木造 平屋 木造軸組伝統工法 瓦屋根漆喰押え		
竣工年	明治 30 年頃	設計者・施工者	不明
所見	<p>【住宅】建設当初から造り酒屋の店舗部分を道路側前面に配した兼用住宅であるため、正面玄関は店舗兼用である。過去に大火事を起こした経緯から、煉瓦造の耐火壁やなまこ壁を一部備えている。</p> <p>【蔵 3 棟】精米蔵、仕込み蔵、奥蔵の 3 つをコの字に連続建設した。構造は別。昭和になって特に仕込蔵では、保健所指導により天井に内装を施している。現在、棟や谷などの瓦</p> <p>① 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） 志太杜氏の流れを汲み、銘柄の造り酒屋として、明治 30 年頃に当時の当主 K 氏（現在の当主、K 氏の祖父）が近所から引っ越してきた折、住宅母屋と酒蔵を建設した。 建設時には杜氏も含め、多くの職人が常駐する酒蔵であったが、昭和になって出荷量は減少し、現在酒造業をやめて母屋の店先で酒販売を細々とする程度になってしまっているため蔵に全く機能していない。何機もある仕込み桶（昭和 20 年代の瑠璃器）も利用できず、無償提供でも貰い手がない。愛着のある貴重な建物、資材ではあるが、廃棄するにも費用が掛かり、現状そのまま放置しているしかないのが実情。</p> <p>② 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること 建物本体の維持管理も費用負担が大きく、大変難儀しているが、土地建物の固定資産税も負担が大きい。いっそ、建物自体を解体し、住宅用地等にして売却なども検討したが、市街化調整区域であり解体にも非常に高額のコストがかかるらしい。かといって維持するにも負担は大きく、前にも後ろにも動けず、どうしたらよいのか。大変困っている。</p> <p>③ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） 住宅は行政の手配で無料耐震診断を行ったが、開口部が多いため、総合評点は 0.39。 XY 軸共に基礎の RC 化や耐力壁の増設提案などが挙げられているが、費用的な面で耐震は断念した。一方、屋根瓦の補修をしていないため、漏水激しく構造材への傷みも進行が速い状況にある。この規模の建築物を個人所有として維持管理していくのは無理。毎年、維持保全だけでも修繕費が大きな費用負担になる。特に、昨今の台風等の異常気象で正面から強い雨風が吹き付ける等、劣化が著しく進んでいる気がする。建物部分の傷みがかなり限界になった部分のみ、その都度段階的に解体して行っているが、解体費用も負担が重いのが実情。 電気配線も古くて細い。その上、鼠が食うため断線や漏電の恐れもある。火事等になった場合に周辺への影響が怖い。</p> <p>④ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） 構造躯体は材の太さからか、今までの地震でも大きく揺れたり傷んだりすることはなかった</p>		

⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

様々な関係者と名乗る方が幾度となく訪れ、この住宅母屋と酒蔵の重要性を話してくれるが、実際維持に必要なのは資金。その維持管理費を、本業の酒造業で賄えているのであれば兎も角、会社勤務の個人の所有物として所得から捻出するのは到底無理。こうした事態を相談しても、結局維持管理の担い手が個人であるかぎり、解決にはならない。

写真

▼住宅母屋外観



▼住宅内部広間（漏水）



▼住宅店舗奥、土間



▼蔵外観



▼蔵壁面の崩落、木舞が表れて



仕込み蔵内部



▼木舞は竹、丸のまま。 ▼瓦が飛んで傷みが進む。

▼電気ガイシ



名称	糰屋 (延宝7年:1679年糰屋三左エ門により創業)		
所在地	静岡県掛川市日坂		
所有者または管理者 連絡先	K氏		
構造・規模・形式等	木造2階建て・約延100坪(土地200坪)・伝統工法		
竣工年	明治中～後期	設計者・施工者	不明
所見			
<ul style="list-style-type: none"> ・2階の階高が高く寄棟形状で、明治期の洋風な形式を少し取り入れられているのが見受けられる。 ・建物外壁に劣化やめくれが見られるが、本体としてはひどい傷みはない様子。 ・玄関庇、門の庇は新しい瓦に葺き替えられている。 			
① 建物について感じていること(愛着、自慢、不満など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・夏は涼しいが、冬はとにかく寒い。 ・建物が大きく、昔から住んでいるので、それなりに物もたまり、掃除・片づけもままならない。 ・建物の2階には、船乗りだった明治初期生まれの先代が、船室を再現した30帖ほどの広間がある。昔、小学生が見学にきたことがある ・これからも少しずつ修繕しながら使い続けたい。 			
② 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること			
<ul style="list-style-type: none"> ・50～80年前に増築した部分にシロアリの被害が出て、大がかりに修繕した。 ・大規模な補修はお金がかかるのでなかなかできない。 ・昨年、玄関先の屋根の雨漏りを修理したが、漆喰で仮に止めるだけの修繕で根本的に直したのではない。見えない裏側の屋根は板金に葺き変えようかと思っている。 			
③ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること(修理・修繕、耐震補強、建替えなど)			
<ul style="list-style-type: none"> ・耐震については不安ではあるが、建替え同様のお金がかかるとも聞くので、現状維持がやっと。 ・現在娘と同居しており、娘が継ぐことになる。 ・孫(20歳前後)は「この家は潰してはいけない」と、他の家が新しくなるのを見ても羨ましいとは言わない。小さい頃からこの家を見てきていて、壊すという考えは無いのではないかと。 ・娘からは「お母さんの代で直せるところはなるべく直しておいて」と言われている。 ・建物については、近所の岡田建築さんに相談しており、屋根や板金の補修の際も紹介してもらった。 ・潰さずに残して欲しいが、建物の調査はプライベートな建物なのでお断りする。登録文化財についても今は考えていない。 			
④ 非常時の対応等について(災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の連絡：可 ・リストへの登録：可 			

調査年月日：平成24年10月31日

調査者(倉田裕司、杉山美奈子)

⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

・特になし

写真



外観

名 称	Y旅館		
所在地	静岡県掛川市横須賀		
所有者または管理者 連絡先	M氏		
構造・規模・形式等	木造2階建	延べ面積	563.70 m ²
竣工年	昭和6年	設計者・施工者	S氏他
所見	<p>Y旅館は、江戸末期の八百屋からの歴史をもち、明治末期に旅館をはじめた横須賀街道の街並みを代表する建物として、今も地元で愛され、利用されている割烹旅館である。</p>		
⑥ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>平成23年の台風で棟の瓦が落ち、自分で応急処置をしたが、地元の瓦屋から修理の見積りを取った時、この建物を今後維持管理していくには相当の覚悟が必要と感じた。 自分が生まれたときは既に建っていて、愛着はある。 夏は涼しく、冬は寒い。</p>		
⑦ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>昔の地震の影響かどうか判らないが、礎石と柱にずれが生じている。厨房は何年か前に修理した。地盤は地下に水道(みずみち)が通っていると思われ、土間からの湿気の影響が各所に発生している。自分自身も老化しているので、今後の維持に不安を感じている。 旅館の性格上、時代の変化、営業の効率化、防災などの制約が有り、常に改装・改善を繰り返さなければならない。</p>		
⑧ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>障子も自分で張っているし、とりあえず維持管理するしかないと思っている。建物の奥の方も白蟻による被害が生じており、現在その処置は専門業者にお願いしている。 地震は来てみなければわからないが、三年前の地震では壁が一部剥落した。 建物の耐震性についても把握出来ていないので、耐震診断はしても良いと思っている。</p>		
⑨ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>そのあたりについては、専門家のアドバイスどおりにします。</p>		

調査年月日：平成 24年 10月 19日

調査者（村松浩次、平松郁生）

- ⑩ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

地元に建築士で構成された熱心な活動グループがあり、自分も交流している。
こうしたグループも一緒になってやってくれれば歓迎する。

写真



調査年月日：平成 24 年 10 月 19 日

調査者（ 村松浩次、平松郁生 ）

名 称	A美術館		
所在地	掛川市横須賀		
所有者または管理者 連絡先	S氏		
構造・規模・形式等	鉄筋コンクリート造 2階建 延べ面積 75 m ²		
竣工年	昭和6年	設計者・施工者	設計 E氏 監督 M氏 棟梁 E氏
所見	<p>昭和の初期に、田舎町に文化の光をという創立者の社会に奉仕するという志を元に、鉄筋コンクリート造で建てられた、個人の美術館だ。創立者の志を継承する現館長により、大切に保存されているデザイン的にもすぐれた建築物だ。</p>		
⑩ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>設計は地元出身で早稲田の学生であったE氏に任せ、施工の大半も地元の人たちにまかせた、創立者の「和魂洋才」の精神が感じられる建物だ。 不満は無い。</p>		
⑪ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>全く他からの補助を受けずに個人で維持管理しているため大変。 コンクリートの風化等が心配。 スチールサッシの改修、鍵の修理等が大変。</p>		
⑫ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建て替えなど）	<p>創立者の考えが、「形のあるものは朽ちる」ということから、無理をせず出来る範囲の維持管理をしていきたい。 現館長は元建設部を持つ会社の経営者であり、維持管理の相談、対策は容易。</p>		
⑬ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>登録する事はやぶさかではないが、今までも創立者の志に合わない訪問者があり、登録リストなどにより、そういうことが無いかが心配。</p>		

調査年月日：平成24年11月20日

調査者（村松浩次 平松郁生）

- ⑮ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

主旨も良く分かり、良いことだと思う。

写真



外観

名称	H家住宅		
所在地	磐田市前野		
所有者または管理者 連絡先	H氏		
構造・規模・形式等	木造平屋建専用住宅 屋根：昭和30年代茅葺に亜鉛引き鉄板で覆う 延べ床面積：241.38 m ²		
竣工年	慶応3年 西 1867年	設計者・施工者	棟梁：住吉・亀五郎（当主による覚書）
<p>所見</p> <p>1. はじめに 当該の建物は、天竜川下流域付近の田園地帯（市街化調整区域）に位置している。このH家は、代々 松尾八王子、東八王子神社の神官や旗本秋元氏（4千石）の家臣、代官、庄屋などを勤めた歴史があり現在の当主は15代目でH家住宅は貴重な歴史的建造物である。</p> <p>2. 建物について H邸の敷地は南側からの前面道路、東、西、北側と4方向の道路に接し、約1500坪ほど有している。敷地内には、主星の木造建専用住宅、長屋門、土蔵の計3棟かおり、H邸の当初の建物は、安政大地震で倒壊して、現在の建物は慶応3年（西暦1867年）に建築され、昭和30年代には屋根材の茅の不足もあって茅葺きの上に亜鉛引き鉄板で覆い保存されている。 建物の特徴として、武家屋敷で化粧柱からなる玄関ポーチにはかつて殿様が出入りする式台があったといわれ、現在の玄関は1間東側に改装された。その正面右には約8.8寸角桧の大黒柱がある。 また、玄関東側の瓦屋根棟は裏口まで三和土にして台所、浴室（風呂場）、便所などは下足で使用したと考える。なお、この棟は床を張った様式に改造され現在に至っている。次に、玄関より西側は武家屋敷の面影が残っており、床は玄関土間から60cm程度上り、8帖（洋間に改装）と和室10帖の2間が西に続く、具体的には、10帖（付け書院、床の間、神棚）仏間10帖、武士来客の控え間、南、西、北側に広縁ほか配置された間数からなる。 建物内部の仕上げ等は竿縁天井、壁は竹小舞かき上壁塗り仕上げ、主要な柱は5寸、さらに、長押しには釘隠し金物が施してある。また、殿様が利用した湯殿もあったが戦前に滅失した。</p> <p>3. おわりに H邸は、神官、武家として、この地域の中心であったと思われる住宅であり歴史的根拠が書面として残されている。また、この建物は小屋組には茅も残り損傷が少なく当時の技術の高さを今に伝えるものである。</p>			
<p>⑩ 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） この建物は、古い家ですが私が生まれ育った家であり愛着がある。地域のみなさんからは、立派な家と言われており、粗末にしたいと思っていない。冬寒く、夏は暑い屋根が高いせいもあり風通しを気おつけば日によって過ごしやすい。また、現在は玄関東側の瓦屋根棟の台所、便所などを改装してあり生活の不便さを感じていない。</p>			
<p>⑪ 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること この建物は地震対策をしていない状態である。また、老朽化が進んでいることもあって3~4年毎に屋根の塗装工事などを行っており、屋根の葺き替えなど今後維持管理費の増大が予想され心配である。私の代は、この家に住むつもりですが、次代は、屋敷内に住宅の新築を予定しており建物の維持管理費が負担になると考えている。</p>			
<p>⑫ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） この建物は地震対策などいろいろと問題がありますができる限り現状で維持管理をしていきたい。</p>			
<p>⑬ 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） 歴史的建造物保全のため、登録リストの作成の必要性を説明しH邸を建築士会の登録リストへの掲載や、災害時に被害があった時に連絡することについての了承を得た。</p>			

調査年月日：平成24年10月1日 立合者：H氏

調査者（鈴木敬雄・深田義雄）

⑳ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

写真



①遠景 南側



②和室 10帖（付け書院、床の間、神棚）



③仏間 10帖



④仏間 鴨居上 檜



⑤玄関（改装）大黒柱桧 8.8寸

調査年月日：平成 24 年 10 月 1 日 立合者：H氏

調査者（鈴木敬雄・深田義雄）

名称	K邸 伊豆石の蔵（書庫）		
所在地	磐田市前野		
所有者または管理者 連絡先	K氏		
構造・規模・形式等	木造二階建 石蔵 屋根：日本瓦葺き 延べ床面積：約 98 m ²		
竣工年	不詳	設計者・施工者	不明
所見 1. はじめに 当該建物は、天竜川下流域付近の田園地帯（市街地調整区域）に位置しており、この石蔵は昔の面影が残る細い路地に面した敷地にある。K家は、戦前には多くの耕作地を有しており穀物を貯蔵する倉庫として石蔵を利用した歴史があり現在の当主は13代目である。 2. 建物について K邸の敷地は西側の前面道路に接しており約450坪ほど有している。敷地内には、主屋の木造平屋建て専用住宅（推定：明治初期）、石蔵、倉庫、長屋ほかがあり、古山邸の石蔵には、慶応二年見附で焼かれた鬼瓦が使われているが、K氏は「敷地内の他の蔵を解体したものを使用した可能性もある」と言われ建築年は不明である。 建物の特徴として、石材の模様は伊豆石特有の斜め45度の石ノミの跡があり、それは一段ごとにモルタルで積み上げ柱にカスガイ打ちで固定されている。入口柱は伊豆青石、敷居は白御影石が使われ、片引き戸（鉄製：修理）からなり入口はアーチ式に台形の石を積んである。また、この部分の霧除け腕木金物には唐草模様が施され、屋根はカラー波板鉄板に葺き替えている。さらに、平成19年には一階の床や、屋根及び小屋組を補強され、その補強、補修方法は当初の登り梁を水平梁に束立てしてあり外部は、妻矢切壁中央、南側壁など数カ所にクラックの補修が施されていた。なお、東南海地震の被害は軽微であった。 3. おわりに この建物に使用されている伊豆青石、アーチ式入口、また、屋切破風板、鼻隠しにも高級な伊豆青石が使用されており、当時の歴史的文化を今に伝えるもので歴史的建造物として貴重である。			
21 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） この建物は、長野小学校の学区（長野地区）で唯一残る伊豆石の蔵で大切に維持していきたい。また、平成24年10月に行われた磐田市文化財課が企画した「文化財めぐりウオーク」には約百名の人達が見学に訪れた。			
22 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること この建物は老朽化が進んでいることもあって外壁の伊豆石のひび割れが発生しており、台風時や今後予想される東海地震の被害に遭うことが心配である。なお、平成19年に一階の床や、屋根及び小屋組を補強修理している。			
23 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） また、この建物は、修繕を重ねて維持管理していきたいが金銭面で余裕がないのが現状である。			
24 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） 歴史的建造物保全のため、登録リストの作成の必要性を説明しK邸を建築士会の登録リストへの掲載や、災害時に被害があった時に連絡することについての了承を得た。			

調査年月日：平成24年10月27日 立合者：古山晴海様 調査者（鈴木敬雄・深田義雄）

25 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

建物が老朽化しておるため、改修する時に修理方法の相談などを受けたいので歴史的建造物のよろず相談窓口ができればそれを利用したい。

写真

①遠景 南側



②近景 入口部



②近景 入口部③矢切部



名称	F 寺 (K 観音)
所在地	静岡県浜松市東区笠井町

所有者または管理者 連絡先	K 氏 兼務住職 (H 住職) I 氏 (総代)
構造・規模・形式等	本堂 木造平屋正面 3 間奥行き 3 間入母屋造り平入り向拝付 瓦風銅版葺 面積 75.97㎡
竣工年	明治23年
設計者・施工者	不詳 浜北区永島 M 寺 Z 寺堂を1890 (明治23年12月) 購入移築

所見

802年(大同2年) 亀玉川の瀬で発見された木彫像が笠井の観音様と呼ばれ今日まで言い伝えられている。
17世紀初頭から五日と十日に市が立つようになり、東海屈指の市は遠州笠井の五十市と尾張一宮の三八市と呼ばれる。集配産地として物の流通が始まり、塩と魚の許可も与えられる。その後綿織物、こうぞ(和紙の原料) 桑を栽培し、養蚕と紙すきの産業を発展させた。明治16年12月Kの大火にて焼失。明治23年観音堂再建。昭和19年東南海地震西側部分に被害有。平成4年K観音慈光会が発足し、改修整備を重ね今日にいたる。

① 建物について感じていること(愛着、自慢、不満など)

観音堂であり、K観音を守る建物で、現在だるま市の中心となっている K観音は、笠井地区のシンボリックな存在であり、今後も守りたい

② 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること

永い間、K観音のお守りは門前の2.5軒屋の内2軒が毎年交替でお世話をしてくれることが、仕来りだったが、継続が難しい状況になった。平成4年K観音慈光会を立ち上げ、応援をしてK町内全体で守り保全する方向に向かっている もっと改修をしたいがお金が不足

③ 建物を将来、どのようにしたいか思っていること(修理・修繕、耐震補強、建替えなど)

耐震補強修理修繕はしたい 住職中心の組織作りを行う 建物維持管理はだるま会館、だるま市の売り上げを使う。年間150万ほど 年1回のだるま市を年寄りの生きがいの場として活用したい 観音様のためにボランティア活動を行い支えていく

④ 非常時の対応等について(災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など)

9月の台風の時は時自主的にやった 役所に報告はしていない 原状は自治会組織を中心に対応している
災害時の連絡の可否 お願いしたい
建築士会の登録リスト可能

調査年月日：平成24年9月26日

調査者(中村利夫平野克典)

⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて

（意見・質問・注文等）

そのような組織が出来るのであれば登録したい

写真



正面



向拝



背面

調査年月日：平成24年9月26日

調査者（中村利夫 平野克典）

名 称	D寺 本堂		
所在地	浜松市西区神ヶ谷町		
所有者または管理者 連絡先	D寺 K氏		
構造・規模・形式等	木造平屋建 平面規模：約 13.80m×13.32m		
竣工年	元禄 4 年	設計者・施工者	不明
所見 <p>元禄 4 年に建立された本堂を中心に、庫裡（嘉永 6 年）、観音堂（寛永 3 年）、山門（天保 3 年）、鐘楼など主に近世に建てられた建築物で構成された伽藍であり風格を感じさせる。庫裡と本堂の屋根は元々茅葺きであったが、庫裡は大正 6 年に 葺き、本堂は昭和 34 年に茅葺きを金属板で覆う改修工事が行われている。</p> <p>近年の改築はあるが近世の寺院の伽藍の様相をよく残しており、また棟札も残っていて建立の経緯も判明しているなど、文化財的価値を十分に有するものである。</p> <p>鐘楼については、昭和 58 年に本山である方広寺の第二鐘楼を移築したものである。棟札等は今のところ見つかっていない らしく元々の建築年代は明らかではないが、方広寺の明治の大火を逃れた建物であるとすれば、たいへん文化財的価値 が 高いものである。</p>			
26 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） <p>元々、方広寺派の寺という由緒ある寺格で、建物にも愛着を持っている。本堂、庫裡、観音堂等の棟札を展示していることから見ても、建物への愛着が感じられる。</p> <p>強いて不満を言えば、本堂には空調機器が無いために居住環境が悪く、冬はとても寒いということである。</p> <p>その解決策として工場等で使用される暖房機器を購入し、必要なときにだけ本堂に出して対応している が、 灯油を 1 時間で 1 リットルも消費してしまう。 （夏は建具を開け放せば風通しがよいため、問題ない。）</p>			
27 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること <p>本堂に関しては、以前耐震診断してもらったときに、大地震で倒壊すると診断された。また、とある建設 会社に見てもらったところ、小屋組と床組がかなり傷んでいて大規模な修理が必要と言われた。</p> <p>庫裡に関しては、屋根を茅葺きから瓦に葺き替えたときに軒の出を延ばしたため、四隅の軒先が下がって きていて、修理が必要と考えている。また木連格子部分が傷んで穴があいていたり、雨漏りがしたりす</p>			

るなど、早急に修理したい箇所がある。しかし今まで修理等が必要なときには、その都度、施工業者を探したり、たまたま営業に来た建設会社に依頼したりするなど、本当に信頼して任せられる業者がない。

その他には、周囲が大きな木々があるため落ち葉で軒樋が詰まったり、西側にある賀久留神社の崖が台風時に崩れたり、崖にある巨大な御神木が境内側に倒れたりしないか、心配で悩んでいる。

その他の心配事としては、団塊の世代の高齢化に伴い檀家の数や墓地の需要が増えている一方で、墓地の余地がなく需要に応えられない、核家族化の進行に伴い先祖祀りの意識が希薄化しているなど、社会状況の変化に応じた「寺」の運営方法を模索しなければならないことが挙げられる。

28 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）

できることであれば、この本堂をずっと残したい。耐震上、どうしても建替えが必要であれば仕方ないがその場合でも木造で建てたい。

庫裡に関しては、耐震診断で本堂より良い結果が出ていて、将来的には改築してしまった玄関廻りを元の土間に復元したいと考えている。

また、国の登録文化財への登録にも興味がある。

29 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）

災害時の連絡及び静岡県ヘリテージセンターの登録リストへの掲載をお願いしたい。

30 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて

（意見・質問・注文等）

現在、営繕等が必要になったときに、信頼して依頼できる業者がないので、静岡県ヘリテージセンターが設立されて、相談に乗ってくれたり、業者を紹介してくれたりするとたいへん助かる。

しかし、建物の修理や登録文化財への申請、そしてその委託先は、すべて檀家の役員会で決定するため、檀家役員の賛同が得られなければ、ヘリテージセンターを通して依頼することはできない。

調査年月日：平成 24 年 10 月 9 日

調査者（ 伊藤 哲郎 ・ 小笠原 徳明 ）

写真



本堂外観



本堂祭壇



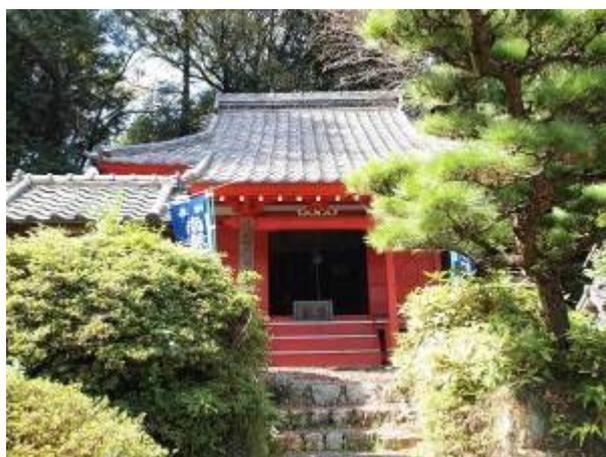
庫裡外観



庫裡内部



山門



観音堂

名称	U組秋葉山常夜燈鞘堂 浜松市指定有形文化財		
所在地	浜松市浜北区上島		
所有者または管理者 連絡先	自治会N9班（23世帯）、N10班（14世帯）が順番で管理		
構造・規模・形式等	桁行1間、梁間1間、木造棧瓦葺、入母屋造		
竣工年	明治35年	設計者・施工者	棟梁・A氏、弟子・I氏
所見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建立者A氏の孫、O氏にお話を伺う。 ・ お龍燈様と呼ばれており敬意をもって住民に親しまれている。 ・ 前年度保存修理が完了しており住民の保存意識を感じる。 			
31 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在小学生がマイクロバスで見学が行われている。 ・ 氏が幼少のころから遊び場の一部にあり親しみをもっている。 ・ 上島にもう一つ龍燈があり昔はそちらが上島の中心だったかもしれないがまた秋葉灯籠との交流は現在行われていない。 ・ 内部照明を昔は灯していたようだが長氏の記憶では灯がともった記憶はない。 			
32 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の上部が重いのでこれから先の耐久性に不安がある。 ・ 市指定文化財になっているので制約があり、小さな改修もできない。 ・ 修繕前は傷みがひどく危険だったので、幼稚園の集合場所になっていたが一時期柵で覆い周辺に行けないようにしていた時は困っていた。 			
33 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） <ul style="list-style-type: none"> ・ 7～8割の住民は保存に賛成なので維持していきたいと思っているが、前年度の修理・修復も月々寄附（月千円を2年）40件弱でまかなったが、反対者もいたことから耐震補強建て替えはなかなか難しく思われる。 			
34 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の連絡や建築士会の登録リストへの掲載等していただければ助かるが、非常時なのでうまく対応できるか不安がある。 ・ 案内看板に非常時の連絡先の記載を提案したら快諾していただけた。 			

調査年月日：平成24年10月14日

調査者（ 中谷 悟 柳田 誠人 ）

35 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて
（意見・質問・注文等）

- ・ヘリテージセンターから自治会に被害時連絡を頂けると助かる。
- ・自治会を通じて講演会等を行っていただき周知及び意見収集をしていただけると浸透するのでは。

写真

常夜燈鞘堂



名 称	Y邸		
所在地	浜松市北区細江町気賀		
所有者または管理者 連絡先	N氏		
構造・規模・形式等	木造2階建		
竣工年	昭和10年	設計者・施工者	大工 I氏
所見 <p>Y邸には客間として使われている4棟の建物があり、それぞれが特徴を持った意匠で作られている。当主の普請道楽とも呼べるこだわりが、細部の意匠や使用されている材料にも感じられる。庭園も建物と一体として計画され各建物から美しい景観を觀賞できる。添付の写真の建物は1階が萩の間・2階が日の出の間と呼ばれている。屋根は切妻の茅葺でカク棟となっている。萩の間は数寄屋風の意匠で天井は小丸太の竿縁天井で、日の出の間は籠目天井となっている。</p>			
36 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など） <p>祖父のN氏が心血を注いで建てた建物群を大事にしていきたい。 材料、仕上げ、意匠等様々な工夫が凝らされている。 祖父N氏の長男（現当主の叔父）が日本画家として有名なN氏で彼の生家としても重要である。</p>			
37 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること <p>子供が店を継ぐ予定が無く自分の代で終わってしまう。</p>			
38 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど） <p>自分が生きている間は残していきたいが息子の代になったらどうなるか判らない。 登録文化財にすることに興味がある。 修繕は随時、行っている。 耐震補強は考えていない。</p>			
39 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など） <p>災害時の連絡 可 建築士会の登録リストへの掲載 可</p>			

40 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）

保存について、いろいろ相談に乗ってほしい。

写真



萩の間・日の出の間



日の出の間

名称	H寺 明治天皇行在所（旧名称：飯田本陣 上段の間）		
所在地	浜松市北区引佐町奥山		
所有者または管理者 連絡先	H寺 代表役員 O氏		
構造・規模・形式等	木造平屋建 平面規模：約7.2m×10.8m（約78㎡）		
竣工年	明治18年	設計者・施工者	不明
所見	<p>すべてに大振りな寺社建築の中で、ほっとできるスケール感を待った建物と庭である。保存の状況は良好だが、本来の行在所として使われた部分と移築時、又は移築後の追補部分との検証が必要。併設された茶室、待合、水屋部分はどこから来たのかなど、沿革の調査も必要となる。また、上段の間仕切、前室の間仕切など、行在所当時の構えの復元も検討しなくてはならないかもしれない。</p>		
41 建物について感じていること（愛着、自慢、不満など）	<p>現在は、館長住居に隣接し、主に館長の賓客接待用としてのみ使用されている施設なので、一般拝観を受け付けていない。週1～2回の利用が現状である。館長の住居と一画といった捉え方をされているようである。この建物に限っていえば、普段の利用があまりされていないためか、「明治天皇行在所」といった仰々しい名称から想像される丁重な扱いや、文化的価値に対する思い入れなどは、さほど感じられなかった。</p>		
42 建物を維持・保全する上で、困っていること・悩んでいること	<p>施設の営繕に関しては、ちょっとした手直しは地元の工務店に入ってもらっている。大掛かりな事には、東京の「門奈建立」や名古屋の「松井建設」を考えている。造園については、地元の庭師(京都で修行)に定期的に入ってもらっている。</p> <p>園内のことは、おおよそ賄われているが、山間地であるため、台風による自然材の倒木や崖崩れなどが気付きである。また、行在所の南に隣接した「三笑閣」という、木造3階建ての客殿の傷みが気付きで、積極的な利用を控えざるを得ない状況である。耐震補強工事をするまでの価値があるのかどうか判断しかねている。</p> <p>境内には多くの建物があるので、ある建物の修理が終われば、別の建物がまた修理が必要になるというように、日常的にメンテナンスが必要な状況である。</p>		
43 建物を将来、どのようにしたいか思っていること（修理・修繕、耐震補強、建替えなど）	<p>前述したように、常時拝観受付というわけにはいかないが、期間や日時を決めての公開及び施設利用は可能である。維持管理の費用の捻出、また生涯学習等の社会貢献になるのなら積極的に公開していきたい。</p> <p>※「S間」については、雨漏り補修や耐震改修が経済的・構造的に可能ならば、日常の施設利用の観点からより利用価値が高いものと思われる。</p>		
44 非常時の対応等について（災害時の連絡の可否、建築士会の登録リストへの掲載の可否など）	<p>重要文化財をかかえる施設として、市の文化財課とは密に連絡を取り合っている。とりあえず、非常時の対応として、市の文化財課を窓口として、県教育委員会、文化財建造物監理士等への連絡網を想定している。</p> <p>静岡県ヘリテージセンターの登録リストへの掲載は進めてほしい。</p>		
45 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）	<p>建物の文化財関係の調査や事業が必要になった場合は、市の文化財課を通して建築史専攻の大学教授等に依頼している状況で、特定の学識経験者や設計事務所があるわけではない。</p> <p>ただ、前述のとおり重要文化財をかかえている施設のため、市や県の文化課と密接な関係があり、今後も相談窓口は、市の文化課となるであろう。</p>		

調査年月日：平成24年9月25日

調査者（伊藤哲郎・小笠原徳明）

写真



①前座敷



②東側庭と土庇



③上段の間 (北西側)



④上段の間 (北側)



⑤上段の間 (東脇の間の板戸)



⑥附属屋 茶座敷



⑥附属屋 水屋



⑦南に隣接するS閣

調査年月日：平成 24 年 9 月 25 日

調査者 (伊藤哲郎・小笠原徳)

氏名	E氏
事業所名	E工務店
所在地・連絡先	伊東市川奈
<p>① これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件 市内にある東郷平八郎元帥の所有だった別荘の修繕を職業訓練校の生徒を指導しながら行ったこと</p> <p>② これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど バブル時期に別荘等の豪華な仕事にあまり手を出さず、地元の人の仕事を堅実にこなしてきたことが今の信用につながっている。</p> <p>③ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること ハウスメーカーが最初安価な坪単価をいって仕事をもっていってしまう。 施主様が設備等の見積金額に入っていないことをご存知なくハウスメーカーの単価でできないか?といってくる</p> <p>④ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど 協力は出来ると思う</p> <p>⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて （意見・質問・注文等） 参加要請があれば協力したい</p>	

調査年月日：平成 24 年 12 月 2 日

調査者（ 石田充利）

氏名	M氏
事業所名	D建設
所在地・連絡先	伊東市 富戸
<p>⑥ これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件 伊豆高原 S邸で外部の建具もすべて木製でアルミサッシを使用しない建物の施工に携わった。</p>	
<p>⑦ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど その建物で木製建具のため建具が風で音を出し消音に苦勞した。</p>	
<p>⑧ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること 施工物件が減少してきている。 職人自体の道具や仕事が釘からビスへと変わってきている又手間代が安くなっている。</p>	
<p>⑨ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど 協力は出来ると思う。</p>	
<p>⑩ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて （意見・質問・注文等） 大いにやっていただきたい。</p>	

調査年月日：平成24年12月2日

調査者（石田 充利）

氏名	M氏
事業所名	有限会社 M工業
所在地・連絡先	静岡県沼津市末広町
<p>⑪ これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件 畑毛温泉の中川邸（洋館）補修工事など。 松崎町の鰻塚（こてづか）、（社）日本左官業組合連合会が建築母体となり、平成17年11月12日に完成、組合役員として参加した事。</p> <p>当事務所に施工されている漆喰壁の天井蛇腹、胴蛇腹などの解説や左官工法としての「落とし掛け」、「置き引き」「現場引き」についての技術的な話を伺った。</p>	
<p>⑫ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど 現在は後継者を育成する立場にあるが、左官職人を希望して来た若者には、まず最初に挨拶の仕方から教える等、色々の苦勞がある。 左官職人（親方）として私で四代目であることにも誇りを持っている。</p>	
<p>⑬ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること 左官材料（土、木舞）が無い、また土壁の仕事自体の需要が無い。 従って技能の継承や、施工方法の保存が難しい状況にある。 現在は「職能給」が無い。これについては現在、「基幹技能士」活用の動きもある。</p>	
<p>⑭ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど 災害時には地元の強みを生かした機動力が大切であるから、各職人組合に直結したネットワークが効果的だと思う。 建築士会との協力については、左官業組合としても協力体制を築きたい。</p>	
<p>⑮ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <p>大いに賛成する。 歴史的建造物の保存に関して、左官職（伝統的）技能を保存するには、今が最後のチャンスだと思う。</p>	

調査年月日：平成 24年 11月 7日

調査者（ 寺西 博 中田 健治）

氏名	K氏
事業所名	株式会社K左官
所在地・連絡先	富士宮市山本
<p>⑩ これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ S鋼鉄のRC3階建ての自宅内の茶室 ・ 富士市大淵芸術村の古建築修復 ・ 富士川水神の本殿の研ぎ出し 	
<p>⑪ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事はいつも苦勞する ・ 凝った仕事はやり甲斐がある ・ 最近漆喰の材料にメキシコ産の珪藻土を合わせて使うなど工夫をしている 	
<p>⑫ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職人のなり手がなく、後継者がいなくなるのではないかと心配 ・ 左官仕事が減ってきている ・ 左官組合で講習もやるが現場が無ければ技術は身につかない ・ 求められている仕事の質の低下 	
<p>⑬ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県左官組合に連絡し、そこから手配をしてもらう ・ 組合同士の連携が必要 ・ 組合の強化が必要 	
<p>⑭ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要だと思う ・ 昔の良いものは残していきたい 	

調査年月日：平成24年11月9日

調査者（山崎 勝弘 伊達 剛）

氏名	W氏
事業所名	所属なし(一人親方) ※組合も入っていないそうです。
所在地・連絡先	静岡県富士市
<p>① これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の八王子神社の手伝い ・駿府城の坤櫓の手伝い 	
<p>② これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの建物での仕事を覚える(理解する)こと 	
<p>③ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年をとってきて、体力的にどこまで続けていけるか。仕事をまわしてもらえるか。 ・どうやってこの先仕事があるのか。 ・キザミなどがある仕事が少なくなっている。 	
<p>④ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはみんなに任せます。個々に呼ばれば協力はしていく。 	
<p>⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口を設けるのはいいと思う。 ・仕事に支障がでない範囲なら。 	

調査年月日：平成24年11月30日

調査者（川嶋章弘 早川眞 鈴木武 瀧康史）

氏名	井石 章 (S. 21. 11. 07生)
事業所名	イセキ工務店
所在地・連絡先	〒420-0885 静岡市葵区大岩町10-11 Tel 054-246-8482
<p>⑥ これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那谷寺（石川県小松市）の三重塔改修工事 ・某建築家の設計による円錐状の屋根のある住宅（おまけに2階の屋根は振れ隅！）F邸。 ・静岡市宮ヶ崎町 東雲神社本殿新築工事・東雲神社拝殿新築工事 「大工になった以上は、五重塔くらいは作りたい！」と願った。 	
<p>⑦ これまでの仕事で一番苦労したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の現場をかけもちして、工期が間に合うのかどうか気を揉んだこと。 ・「長生きしたい！」。長生きしないと、この仕事は憶えられないことが多いから…。 ・「神社・仏閣」の雛形を、作業場内につくっている。技術的な信用につながっている。 	
<p>⑧ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財を守っていくためには、後継者の育成は必要だが、残念ながら、弟子が育つ時代ではなくなった。 ・関連する職能（職人）の状況を正確に把握しておく必要を感じている。 	
<p>⑨ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災時などに、保存改修する価値があるかないかの判断をする大工としてのアドバイスができる。 ・そういうことのできる能力のある、「目利き」を組織化しておくことが望ましい。 	
<p>⑩ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人の横のつながりが必要である。大いにやった方がよい。 	

氏名	I 氏
事業所名	I 建築
所在地・連絡先	〒420-0016 静岡市葵区住吉町
<p>⑪ これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な住宅の施工を手掛けてきた。設計監理下での仕事も手掛けてみたい。 ・那谷寺（石川県小松市）の三重塔改修工事に参加。 ・岡部町（現藤枝市）の旧大旅籠の調査、改修工事の一部に参加。 ・小島陣屋（清水区）の調査に参加。 	
<p>⑫ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりたててないが、上記古建築の調査や改修工事に携わったこと。 ・そのほか、富士宮市にあった数件のかぶと造り民家の解体工事（番付を付して生かし取り、その後に移築保存）に従事したこと。 	
<p>⑬ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅建築の仕事がハウスメーカーに行ってしまうと、町場の大工の仕事が少なくなったこと。 ・後継者の育成という点では、20 数年間、職業訓練学校で若い大工に教えている。生徒数は減少傾向。大工職の生徒は存在するが、左官、板金、建具などの職種では訓練学校の存続が危ぶまれる。 	
<p>⑭ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その手のネットワークを持つておくことは必要であろう。 	
<p>⑮ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ある県での文化財の建物の改修工事のように、知識不足から 不適切な仕事になることを避けるためにも、勉強の場を用意しておくことが必要であろう。 	

調査年月日：平成 24 年 12 月 6 日

調査者（ 岡山実夫 ・ 栗田 仁 ）

氏名	T氏
事業所名	T建築
所在地・連絡先	〒421-2124 静岡市葵区足久保口組
<p>⑯ これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱海で40代の頃に手掛けた茶室。山に入って気に入った木（檜材）を伐って使った。 ・那谷寺（石川県小松市）の三重塔改修工事。楓月橋（しょうげつきょう）の新築工事+猿の彫刻。 ・瑞林寺（富士市）の改修工事。 	
<p>⑰ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの現場に苦勞がある。 ・地上で小屋組みを作り上げて、全体（4tを超えることも）をレッカーで吊り上げて建て方を行う。 ・パズルのような伝統的組木に興味がある。（“竹の節欄間”など）。 ・様々な彫刻も自分で制作する。木曾檜を使って能面も彫る ・手作業でしかできない仕事をする。機械には負けたくない。古くて良いものを残したい。 	
<p>⑱ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・珍しく後継者に悩んでいない。息子さんは「父を尊敬している」と胸を張る（友人談）。 ・息子さんは、手仕事の部分も理解し、CADも操ることができる。 	
<p>⑲ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災時の対応として、被災しても、その建物の部材ごとに番付けして、生かし取り解体をして、保存可能なようにしておきたい。 ・かつてある文化財の建物の保存改修工事があった際、知識不足から不適切な工事となった。また2004年の伊東市宇佐美の台風被害の際にも、生かせる構造体まで解体されてチップになった。この種の失敗を繰り返さないためにも、専門家の知恵を結集するネットワークを整備しておくべき。 	
<p>⑳ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古建築の所有者、管理者、施工者、設計者の知恵を結集する核のような存在でありたい。 	

調査年月日：平成24年12月6日

調査者（岡山実夫・栗田仁）

氏名	S氏
事業所名	S建築
所在地・連絡先	〒422-8046 静岡市駿河区中島
<p>21 これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那谷寺（石川県小松市）の三重塔改修工事、楓月橋（ふうげつきょう）新築工事 ・瑞林寺（富士市）の改修工事 ・井波別院瑞泉寺台所門解体調査工事（富山県南砺市） 	
<p>22 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒い時期、「佐渡職人塾」に参加。茅葺きの能舞台の破損した「茅負」の取り換えを（予算の都合で茅を下さずに行ったこと。 ・自宅の建築、会社の事務所も伝統的工法を多用して建設、外部にアピールすることも意図する。 ・町場の現場だけでなく、社寺をつくるレベルの仕事を期待。彫刻にも興味あり。 	
<p>23 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地で歴史的建造物の保存改修などに携わってきたが、地元に戻って社寺の仕事が少ない。せつかく習った技法・技術を生かす機会が少ないこと。 ・弟子を取る意思はある。技術指導員の資格を取っている。 	
<p>24 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古建築の価値について、所有者自身が認識することが必須。 ・老朽化を「建て直しのチャンスと考える人」の考えを変えさせることが望まれる。 ・価値ある古建築が解体されそうなどとき、真っ先に連絡が行く工務店（大工）が正しい価値感覚を持つことが望まれる。 	
<p>25 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人の話を聴く場、互いの意見を交換する場、として貴重であると思う。 	

調査年月日:平成24年12月6日

調査者(岡山実夫・栗田仁)

氏名	S氏
事業所名	(所属組合) 清水建築組合
所在地・連絡先	静岡県静岡市清水区渋川
<p>26 これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和46年(1971年)4月から10月半ば(私の他は9月半ば)までデンマークのコペンハーゲン郊外に東海大学ヨーロッパ学術センター活動の一環として日本家屋(茶室)の建立。(大工5名、左官2名) <p>※ヨーロッパご旅行の天皇、皇后両陛下の9月28日センターご訪問をお迎え申し上げます。</p>	
<p>27 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地職人との打合せ(建築専門用語の通訳不能) ・補助材の現地調達。間柱、貫、ラスボード、モルタルラス、内壁、外壁材料、屋根銅板、基礎や土台、柱や束の口石等すべてファンデーションに訳される。そこで身振り、素振りで話しかけると現地職人も納得してくれた。 ・建物は絶対「かね」で無ければならない。 ・各部屋の畳は打合せ寸法できている。 	
<p>28 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般住宅では職人の必要が無くなるのでは？ ・2、3年前まではよく大工の弟子入りをしたいが、という問い合わせが組合のほうにあったものです。 ・従来工法の縁側で孫と日向ぼっこを楽しむ「おばあちゃん」の嘗ての姿は、日本古来の平和な風景。それも今は幻か。 	
<p>29 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人祭りなどの折、常に交流を持ちつつその非常事態とか発生の場合各地区毎の広域避難場所に於いてテント張りなど手伝い、やや落ち着いたら会合をもち、各地域との連絡を取り合い、お互い協力しながら危険家屋などの調査に携わってきています。 	
<p>30 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのような機関は県などにあるのでは？ ・風土に根付いた伝統的建造物の「視察研究」を目的とした合同研修親睦バス旅行など企画してみても？ 	

氏名	S氏
事業所名	(株)A工務店
所在地・連絡先	掛川市浜野
31 これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件	
・掛川城内、竹ノ丸 修復工事 ・浅羽、円明寺、本堂、山門 新築工事 ・京都平安道場 解体工事	
32 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど	
・総反、総ケヤキの山門は、材料をそろえる事から、加工から、すべて大変でしたし、切妻で、軒が反っていく事が、どんな事かよくわかり、勉強になりました。	
33 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること	
・大工として、低レベルの事の方が、人気がある事、そして、それで、世の中が動いていて、本物はすたれていく。 という現実を、ただ見ているしかない事。 自分も、その一人なんだなど、思う。	
34 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど	
35 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）	

調査年月日：平成 24年 11月 1日

調査者（ 酒井 信吾 ）

氏名	M氏
事業所名	株式会社 W商店
所在地・連絡先	藤枝市平島
<p>36 これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛川城 竹の丸・・・復元工事である事から ・清水 聖見時・・・金型から起こした。既存の瓦は寸法の狂いが瓦ごとある事を解ってもらえなかった事。 ・岡部町 柏屋・・・地元である事 ・岡部町玉露の里での敷き瓦・・・中村先生の指導を受けて工事した事 ・蒲原の倉・・・調査中 	
<p>37 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼瓦の復元・・・金型から抜いただけでは深みが出ないので、そこに一手間加える事で力強さや鋭さ等の味が出てくる。そのひと手間の掛け具合。 ・昔の瓦は精度が悪く寸法が瓦ごと異なるので、復元するに当り基準の瓦を決める事。 	
<p>38 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元請からコストの圧縮を求められるが、 ・弟子制度が無くなった事により安い労働力で職人として育てる余裕が無くなった。人を育てるコストを見れない。 ・工業製品では無い事を理解してほしい。 ・本物を見る眼力を会得してほしい 	
<p>39 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時に対応するには、職人の数が足りない・・・近隣の同業者の応援を得なければならない。 ・仕事の割り振りを行う役目 ・焼物はすぐには出来ない 	
<p>40 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持することに満足しないで、良く調査、観察をして元の形はどうであったのか、その後の変遷はどうなのかを明らかにして復元する努力をしてほしい。 ・本物を見て本物を見抜く眼力を育ててほしい 	

調査年月日：平成 24年 10月 30日

調査者（ 油井眞吾、長谷川正男 ）

氏名	H氏
事業所名	
所在地・連絡先	静岡市駿河区馬淵
<p>41 これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件</p> <p>駿府城東御門 左官工事 井川 お茶蔵 土蔵作り JR 東静岡駅 新設工事</p>	
<p>42 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <p>左官仕事は、大工工事のように、図面とか絵にできないので、今まで経験したことの無い在来工法 例えば、竹小舞より12工程の土壁白しっくい仕上げのようなものは、とにかく、人から眼で盗み、数を重ねて身につけていくしかない。 駿府城東御門の軒先たるきの波型模様のしっくいの下地、たるきに沿わせて太いものから細いものを組んでゆく工夫とか一日でどれだけできるかで人数を配置する見極めが大変だった。 自分のほかに、蔵の修理ができる人がいないといってよい程なので、ちょっとしたことでも、呼び出されることが多い。アドバイスする場合、ほとんどがボランティアになってしまうことが多い。</p>	
<p>43 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <p>後継者がなかなか育たない。自分たちの時代より、仕事に対する若い人の考えかたが、違う。技術よりも生業という人が多く、これでは育たない。 在来の左官に使う材料、土とか藁の入手がむづかしい。特に藁は農家が、昔のような脱穀をしないで、小さくきざんでしまうので、必要な長さのわらが得られない。</p>	
<p>44 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <p>左官職人の連絡は左官組合長を通してもらうのが良い。なぜなら、物件により職人の得手不得手があるので、その振り分けは、組合長が行うようにした方が良い。</p>	
<p>45 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <p>こういった組織をつくることは、必要だと思う。</p>	

調査年月日：平成24年11月26日

調査者（岸裕之、亀山靖生）

氏名	M氏
事業所名	株式会社 Y 左官工業
所在地・連絡先	藤枝市志太
<p>46 これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件 公共建築物の仕事が多かったせいで伝統的建築物に対する仕事を手掛けることは少なかったが、少なかった。が、日本左官組合連合会の役員にたづさわっている時、伊豆長八館の建設に当たり静岡県代表として900万円の予算に対し4,000万円の実行予算となり不足分を全国に寄付を求めたり、職人の選別に当たり左官職人の全国大会で優秀、準優勝を得た人を当てる等のマネジメントの中心となって働いた事。</p>	
<p>47 これまでの仕事で一番苦労したこと、あるいは自慢したいことなど 森田かくどう氏が制作した、羽鳥の極楽寺の太子像が地震で壊れた為、檀家が京都の職人に見積もりを依頼したが価格が折り合わず、組合に依頼が来たのでその修理を行ったこと。 静岡市役所の蛇腹の修復を行ったこと。 掛川の報徳社の修理のための調査に加わった事。等</p>	
<p>48 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること 若手を育てる事。 徒弟制度が無くなった事で若い人を育てることが難しくなった。 ・土:以前は清水の有度で取れたが、環境問題の事から採取できなくなり、今は愛知県新城市から搬入している。</p>	
<p>49 非常時の対応等について:災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p>	
<p>50 静岡県ヘリテージセンター(別紙)を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて (意見・質問・注文等) 職業訓練校も多くが廃校になり、今は静岡校のみで、それも生徒が5人以下になると維持が難しくなる。 組合にも会員10人程の保存会が有るが、若手の入会が無く年々高齢化している。 工法の進歩や代替品の登場で伝統技術を実践する場がなくなっている。技術の伝承も仕事が無い事で難しくなった。一年に一度くらいは技術を実践、伝承する場が欲しい。</p>	

調査年月日：平成 24年 11月 8日

調査者（ 油井 眞吾・長谷川 正男 ）

氏名	M氏
事業所名	H建築工房
所在地・連絡先	静岡県浜松市浜北区宮口
<p>① これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <p>法多山「尊永寺」(高野山真言宗別格本山)内の「渡り廊下」の新築及び書院の部分改修、また敷地内の「氷室神社／社」の修復工事に携わった。特に「渡り廊下」の新築では、境内内の杉を数年前から製材・乾燥させ、吟味した材料選びと各部の納めも一任されていて、また工期にゆとりがあったのでヤリガイのある仕事になった。「氷室神社／社」は、大正14年築造の浜松市二葉遊郭にあった二葉神社の社が移設されたもので、一度解体し、部分改修した上で再度、組み直す工事となった。総檜造りの社で、解体後に拘束から解かれた部材のねじれや変形に、多少てこずった。</p>	
<p>② これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前述した「尊永寺／渡り廊下」工事では、工期・材料・金銭面でも恵まれ、納得のゆくものとなった。法多山「尊永寺」との関係は、大規模な増築工事などは竹中工務店が手掛けているが、小規模な改修や補修工事に関してはお抱え大工的に携わらせていただいている。 ・技術・技能的な難しさについては苦勞と感じたことはなく、かえって歓迎したい。納まりを考察する時間もないような、工期にゆとりのない現場はつまらない。 ・工事監理者の指示のもとに仕上げた箇所が、監理者上司の指示で手直しさせられたことには憤慨した。 	
<p>③ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大を出てから職業訓練校で1年間学び、知合いの伝手で下江町の親方の下に弟子入りした。6年間修行し、いくつかの現場を渡り歩いた後、父親(大工職人)の後を継ぎ現在に至る。36歳。 ・ひとり親方として仕事をしていて、必要に応じ助っ人を招集し現場に臨む場合が多い。請負い規模に限界があるかもしれないが、大工を常用して仕事を回してゆくのは躊躇される。営業活動より職人としての仕事に魅力を感じている。 ・文化財や古建築、伝統工法などの現場に携わりたいが、既存の寺社建築専門業者の営業力がかなり強いので、入り込む余地がない感じ。行政がらみの物件では、とかく経歴主義となりがちで、ひとり親方や若手の登用は難しいのではないか。 	
<p>④ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身が入会していることもあり、建築士会との協力には賛成である。 	
<p>⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣旨には賛成である。前述したように、特にこの業界が既存の寺社建築専門業者に牛耳られた感があり、打開の突破口になればとも思う。 	

調査年月日：平成24年12月6日

調査者（伊藤哲郎・小笠原徳明）

■法多山「尊永寺」内の「渡り廊下」及び書院、敷地内の「氷室神社／社」。



■正面が「渡り廊下」、右手が書院.



■「氷室神社／社」全景.



■「渡り廊下」天井見上げ.



■「氷室神社／社」天井見上げ.

氏名	M氏
事業所名	株式会社 M工業
所在地・連絡先	御前崎市池新田
<p>⑥ これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代に建てられた土蔵の前面修復 ・一般住宅では、内外共全面左官塗りの物件で、特に内部は自己調合による土壁を 100 坪施工したこと 	
<p>⑦ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦勞とは思わない。与えられた試練と思ってやっています。 ・自慢できることは一つもありません。ただ、左官を一筋にやり続けることだけ。 	
<p>⑧ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には仕事量に安定性がないこと。左官（湿式工法）に対しての理解がまだまだ足りないと感じること。 ・伝統的な工法が生かせる仕事がほとんど無い。これによって古くからの左官の工法、文化が閉ざれてしまう恐れがあること 	
<p>⑨ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり重要には考えないが、必要と感じれば、いつ、いかなるときでも行動に移すことは誰よりも早いです。 ・机の上であーだこーだ言っている間に、行動できる人間が集まればとても大きなことだと考える。 	
<p>⑩ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識では役に立ちませんが、知っている範囲であれば、相談、お答えはします。窓口を設けることは良いと思います。 	

調査年月日：平成 24 年 11 月 19 日

調査者（ 村松浩次 平松郁生）

氏名	S氏
事業所名	(有) S左官店
所在地・連絡先	浜松市南区東若林
<p>⑪ これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市南区の寿福寺の庫裏、山門、塀の建築。本堂は先代が施工。 ・浜松市北区引佐町奥山にある臨済宗方広寺。地元の材料を使い補修。 ・旧消防署、旧動物園は先代が施工しており懐かしい。 	
<p>⑫ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残るものなので納得いくものを施行しておきたいとの思いを心掛けている。 	
<p>⑬ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来の施工ができる物件が非常に少なくなってきており若い職人の方々に経験を積ませることが難しくなっている。 ・若い職人の数が少なくなりすぎている。 	
<p>⑭ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左官組合で防災関係の打合せは現在行っていないが、必要だとは感じている。 ・個人としては地域との連携はとっており建築士とのやり取りは行っている。 	
<p>⑮ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体案が決まれば協力の意思はある。 ・実際問題としては行政が第一に動く体制をつくるべきでは。 	

調査年月日：平成24年12月16日

調査者（ 中谷 悟 柳田 誠人 ）

氏名	K氏（社長） K氏（常務）
事業所名	H株式会社
所在地・連絡先	浜松市 電話番号 053-588-7857 F A X 053-588-1955 s.kawai@hamani.jp
⑯ これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件	<ul style="list-style-type: none"> ・天竜区二俣の二俣医院お蔵の外壁修復（14年～15年前） 紹介ルート 日本左官連組合 → 岐阜、泉左官 → ハマニ ・浜松市北区引佐町井伊谷 蔵補修 ・掛川市21世紀公園人造石研ぎ出しの流し台（新築） ・浜松市東区和田町 鈴木邸 壁仕上げ ひかわ壁（杉、ヒノキの皮、及びくずを砕いて膠で練りこみ壁材料として仕上げ）
⑰ これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど	<ul style="list-style-type: none"> ・使用している材料が分からないので、小林澄夫さんに上記の材料について問合せをして見つけた（注）小林澄夫 左官礼讃の著者 左官雑誌の編集者 ・お礼磨き 蔵などの仕事をさせていただいたときに、表戸の裏側等、隠れた部分を磨き上げて施主にお礼の気持ちを伝える左官の心意気
⑱ 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること	<ul style="list-style-type: none"> ・2代目が河合滋さんで、跡継ぎができた。職人も70代～20代まで40数名いる 35歳以下が15名おり跡継ぎ及び継承に関しては問題ない。来春も新人2名入社 ・仕事全体としては減っているけれども、ハマニ左官として、仕事は増えている ・職人は一刻な人が多いので、作業ごとのチームの人選等に配慮している ・左官仕事も範疇が広く、仕事によっては得手不得手もあるので、仕事の種別により人選・配慮をする ・新築の場合外壁のクラックに対するクレームがあるが、通気工法軽量ラスモルタルネット貼等もあり、クラック対策として、大分改善されていることを知ってもらい、左官仕上げとしての外壁を推奨したい。
⑲ 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど	<ul style="list-style-type: none"> ・協力に関して、問題は無い ・他の職人に広げることもする ・左官仕事だけではないが常時維持管理において文化財等の仕事は地元が発注できるネットワークを作り上げ、そのシステムが非常時でも作用することが人間関係、情報の伝達等で大切な要素ではないか ・建築士会との協力はぜひすすめていきたい 河合滋さんは一級建築士 一級左官技能士
⑳ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）	<ul style="list-style-type: none"> ・職人育成システムを考えてほしい ・歴史建造物のよろず相談窓口を設けることについては相談に応じる

調査年月日：平成24年12月6日

調査者（中村利夫 平野克典）

氏名	A氏
事業所名	N左官
所在地・連絡先	掛川市千浜
21 これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件	<ul style="list-style-type: none">・外壁、内装共 漆喰塗の寺院で、一か月程 塗壁が続いた物件
22 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど	<ul style="list-style-type: none">・現在の仕事は和風住宅の物件が多く、塗壁の仕事が多い。
23 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること	<ul style="list-style-type: none">・工期が十分でなく、養生が思ったほどとれない。・荒壁などの物件を経験する機会が少ない。
24 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど	<ul style="list-style-type: none">・今のままでは、伝統技術に携わる機会が少なく、勉強の意味も含めて、協力したい。
25 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）	<ul style="list-style-type: none">・自分の出来る範囲で協力したい。

調査年月日：平成 24 年 11 月 19 日

調査者（ 村松浩次 平松郁生 ）

氏名	K氏
事業所名	K左官
所在地・連絡先	浜松市西区舘山寺
26 これまで印象に残っている、思い出があるなどの施工物件	
<p>「時空庵」(土のかまくら) という特殊な造形の左官工事に、助っ人として2日間手伝った。 (雑誌『コンフォルト』2012年4月号に掲載)</p>	
27 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど	
<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に左官壁の仕上げは、しゃくりに被せる傾向があるが、自分はしゃくりの中で仕上げを納めるようにしている。(しゃくりに対して鏝の厚さ分の隙間が開くことになるが、しゃくりの中まで鏝を入れて壁材がしっかりとしゃくりの中まで入るようにしている。) ・補修用資材も開発され、バラエティーがあり、さまざまな現場に対応できそうになった。 (浸透性シラーや下地硬化剤の開発。) 	
28 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、40代からの職人4～5人で作業を組んでいる。 仕事の量があれば、若い人を雇って育てることができるが、そこまでの仕事量がない。 (それでも、月1棟の割合で土壁の住宅の仕事がある。) ただ、カリスマ左官職人の登場などで、マスコミに取り上げられ、話題になることも多くなり、そうした意味では、新人の育成もそれほど悲観していない。 ・屋根の土葺き工法の衰退に伴って泥コン屋が減ってしまい、浜松近郊では都田町にある(有)イチケンプラント1社のみになってしまった。そこが無くなると、泥を愛知県豊田市から入れなければならなくなり、当然コストも高くなってしまう。 	
29 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど	
協力できる。	
⑤ 静岡県ヘリテージセンター(別紙)を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて(意見・質問・注文等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・施工会社単位ではなく、左官業組合として、ヘリテージセンターに登録したほうがよいのではないか。 	

調査年月日：平成24年11月9日

調査者(伊藤 哲郎・小笠原 徳明)

氏名	T氏
事業所名	株式会社 K
所在地・連絡先	袋井市泉町
30 これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件 <ul style="list-style-type: none"> ・大慶寺の権現造りの本堂の瓦葺き替工事。 破風のある入母屋造りの屋根で、唐破風部分の屋根は銅板葺きであったが、元々瓦葺きであったため、瓦で葺替えた。 ・また、屋根の谷に和瓦を葺くなど特殊な納まりを試みた。 ・兵庫県にある無量壽寺の世界一大きい入母屋造りの本堂屋根葺きの監修を行った。 ・屋根面積だけで3000坪、棟長さは53m、1日30～50人の瓦職人が入り、約2年を掛けて屋根を葺いた。瓦の製造から数えると、5年の歳月が掛かった。 	
31 これまでの仕事で一番苦労したこと、あるいは自慢したいことなど <ul style="list-style-type: none"> ・瓦葺きに必要な技能を学ぼうと思っても、技能は盗むものであり誰も教えてくれないので苦労した。本をたくさん読んで、詳しいことは書かれていなかった。京都の師事していた先生の勉強会に通いようやく納まりを理解できた。 ・住宅の屋根工事でも瓦葺き以外は行っていない。 	
32 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること <ul style="list-style-type: none"> ・瓦は重くて耐震上不利という理由や、震災時の瓦被害のイメージから、住宅の屋根を瓦葺きにすることが減っている。 ・現代風に瓦を利用するデザイン案はあるが、アピールする場がない。 (異業種間の勉強会等を設けて、設計者や工務店にアピールできるとよい。) ・自分の会社では後継者が育っているが、業界全体では後継者不足である。 ・後継者となる若い職人に、技能を伝えたいが、修行する現場や教育費、時間がない。 ・いまの職人は、機械に頼り過ぎていて、技能が衰えてきている。 	
33 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど <ul style="list-style-type: none"> ・協力できる。 ・平常時から文化財の維持管理に関わり、現況調査をして資料を作成しておき、非常時に少ないお金で最善の修復方法を選択できるようにしたいと考えている。 ・また、平常時から維持管理に携わることで、小さな修復工事を兼ねて後継者を育て、技能を継承させていきたいと考えている。 	
⑤ 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等） <ul style="list-style-type: none"> ・今では災害があると、大工（工務店）との横のつながりで現場に行くことが多かったが、ヘリテージセンターが、大工（工務店）のような役割を担って、全体を指揮してくれるとよい。 	

調査年月日：平成24年11月8日

調査者（ 倉田 裕司 ・ 小笠原 徳明 ）

氏名	Y氏
事業所名	株式会社 Y産業
所在地・連絡先	浜松市中区高林
<p>34 これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市佐藤町・瑞雲寺は、瓦職人・友吉(80歳)の体調が優れず一年遅れの落慶となった。住職から「300年持たせるのだから、一年待つことなど何でも無い」と言われた。 ・瓦の中でも鬼は、易学から鬼の形相を決めている。方位によって鬼の顔を変えてきた。常楽寺の山門の鬼は、四方で花の一生を表した。 	
<p>35 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治23年(1890)中沢町で瓦製造業として創業した。3代目から施工を手がけ、現社長は5代目である。 ・瓦の素材は土だから、作り出すものとして最も安価である。土→瓦→住宅の流れを再構築したい。 	
<p>36 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいものを残したいと考えているが、最近は工期とお金が発生している。 ・軽い屋根が好まれ、社寺の本葺きも乾式もしくは一体瓦が使われるようになってきた。 ・瓦屋根でも洋風平瓦葺きが多く、和瓦が葺ける職人が不足している。 ・若者が定着しない。当社でも3~5人/年新規採用しているが、ここ5年間の定着者は0である。労働条件を良くしても競争に勝てない。職人を育てることが出来ない。今は50才代が中心だがその後が居ない。 ・土はブレンドすれば品質が向上することが解り不足していないが、20年前20億枚焼かれていたが現在は5億枚と需要が減ってきている。 	
<p>37 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の体制は業界で整えてある。東海ブロック5県で防災協力協定(賃金・保険も含め)を結んでいる。駿河湾地震で実証されたが、件数があまりに多く、共同受注によるグループ単位での対応策を考慮中。 	
<p>38 静岡県ヘリテージセンター(別紙)を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて(意見・質問・注文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の残し方として、その時代の技術で残していいのではないか。その時代の窯で、その時代の土で作るのだから。 ・歴史的建築物の所有者に感謝状をあげたり、表彰したらどうか。そうして残そうとする意識を高めることが保存につながる。 ・全瓦連では、景観保存運動を行っている。このままではダメだ、だけどまだ間に合うから始めよう、失敗したら別の方法を考えよう、という考え方で運動を行っている。 ・ハウスメーカーは単価と工期を気にするが、設計者にはいいものを設計してほしい。職人が楽しんで仕事出来る環境を作してほしい。 	

調査年月日：平成24年12月14日

調査者(柳田 誠人 中谷 悟)

職種	※3-9
瓦屋根	

氏名	H氏
事業所名	M窯業株式会社
所在地・連絡先	浜松市西区大人見町
<p>39 これまで印象に残っている、思い入れがあるなどの施工物件</p> <ul style="list-style-type: none"> 西来院や浜松城、雄踏の中村家長屋門の改修工事には参加したことがある。古い建物ほど、瓦自体や施工方法等に癖があり、その現場毎の対応に苦心する。地域密着の産業として発展してきた経緯から、その地域特有の素材や焼きの技術、施工法があり、また、施工年代によっても大きな違いがある。 	
<p>40 これまでの仕事で一番苦勞したこと、あるいは自慢したいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜松地区は全国でも有数の施工技能先進地域で、技能コンテストの優勝者を多数輩出している。この業界でも、カリスマ的職人が旗振り役として瓦屋根文化の宣伝に務めている。若い職人達も、そういった優れた先輩のまわりで育成されている。後継者問題より需要量の減少の方が気になる。 地元の工務店が技術的に不相応な仕事を請け負った場合に、経験不足から現場に明確な指示がなく、施工で苦勞したことがある。 	
<p>41 職人として仕事を続けていく上で、困っていること・悩んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> 家内制手工業の瓦焼き会社として昭和24年に創業し、高度成長期の昭和42年、トンネル窯築造とともに近代産業として量産体制が確立した。この大人見地区は、裏山で良質な瓦用の土が採れたことから、戦後、瓦焼き業者が多く軒を連ねていたが、現在は当社のみとなっている。また、自家製造も今では廃止し、「三州瓦」を使った施工専門業者となっている。瓦産業は、元来、地産地消の土着的産業として発達してきたため、瓦自体の形状や施工方法に地域的なばらつき多く、「三州瓦」といっても製造工場ごとに瓦の特色があり、施工技術がものを言う世界である。近年、「標準設計・施工ガイドライン」が策定されたことにより、製品や施工方法の統一化が図られてきた。 阪神大震災以来、「瓦屋根は地震に弱い」といったイメージが定着しつつあり、また先般の台風被害も瓦屋根に集中し、営業上の障壁となっている。また、前述した製品や施工方法の地域的なばらつきが古い建物ほど顕著で、改修工事にあたっては、その物件毎の対応に苦心をしている。瓦焼きと瓦葺きそれぞれに一家言を持った職人が多いアナログな世界であり、それが魅力ともなっていたのだが、デジタル化された情報に晒された一般消費者には敬遠されがちな世界でもある。また、太陽光発電の普及により、屋根はパネルで隠れるものだからお金を掛けても仕方がないといった消費者感情もよく聞かれる。 瓦屋根は日本の建築文化の一翼を担っていると自負している。 	
<p>42 非常時の対応等について：災害時の連絡ネットワーク、建築士会との協力についてなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 陶器瓦工業組合でも、非常時でのネットワーク体制が組まれているが、実働のない現状では机上の構築の域をでていない。実際、被災した場合の動きは掴みにくいが、東日本被災地に助っ人で駆出されていた職人は多く、ある意味での疑似体験はそれぞれの職人個人のレベルでなされているのかもしれない。 建築士会との協力には賛成である。 	
<p>43 静岡県ヘリテージセンター（別紙）を設置し、歴史的建造物のよろず相談窓口を設けることについて（意見・質問・注文等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別意見はないが、最近、東京／浅草寺のチタン合金による屋根改修には大変、残念な想いをした。文化財改修の構造的な解釈に余談を許さないところがある。文化庁・国交省・地域の教育委員会などの意思統一を図るとともに、一般市民への啓蒙活動にも力を入れてほしい。 	

調査年月日：平成24年11月9日

調査者（伊藤哲郎・小笠原徳明）

平成 24 年度 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査 ワークショップ実施報告 1

1 実施日時 平成 24 年 11 月 4 日（日） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

2 場 所 グランシップ 1003 会議室

3 参加数 16 人（このうち職人 5 人大工、瓦、左官）

4 目的 （公社）静岡県建築士会は、今年度国土交通省から委託を受け、「歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査」を進めている。歴史的建造物の維持・保全・活用のために市民、専門家、職人、行政等との連携によるネットワークづくりと、平常時・非常時における歴史的建造物の保全等に関する対応していく体制づくり・拠点づくりを積極的に進めていくことを目的として取組んでいる。

上記の目的を達成するために、建築、職人等の意見を把握し、その内容を基礎として、ネットワーク化、マニュアル化等を検討していくために、ワークショップ形式の意見交換会を 2 回開催する。

5 ワークショップのテーマ

第 1 回 「歴史的建造物を維持・保全・活用していくためにはどうしたらいいでしょうか？」

第 2 回 「(仮称) マニュアルの掲載内容には何が必要でしょうか？」

6 当日のワークショップ

目的 歴史的建造物の保全・維持・活用するためのそれぞれの立場からの課題抽出

7 進め方

時 間	内 容
1 : 30	オープニング あいさつ
1 : 35	オリエンテーション（趣旨説明）
1 : 50	進めかた アイスブレイク
2 : 10	テーマ 1 : 歴史的建造物の保全・維持・活用するためはどうしたら良いでしょうか？（平常時 最高の取組を考える）
2 : 30	（平常時 最悪の取組を考える）
2 : 50	（平常時 最悪案を解消する方法を考える）
3 : 15	平常時 これが一番の解決法
3 : 30	休憩
3 : 40	全体意見交換
3 : 55	テーマ 2 : 非常時には、どうしたらよいでしょうか？
4 : 25	事務連絡
4 : 30	クロージング あいさつ

8 ワークショップの意見まとめ

①平常時の最高と最悪の取組のまとめ

平常時の最高の取組み	平常時の最悪の取組み
<p>1 全体の取組みの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち主が建造物の良さを理解する→周囲も理解する →まちの財産となる <p>2 とにかく、建造物を使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に使用する。とにかく使う（使える）を目指す ・人が集まるように使う ・活用維持 ・動態保存 <p>3 点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検 <p>4 まちのブランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区にこれしかない ・ブランド化。建築群としてのブランド ・個人のものでも町の財産だと思っている ・戦争の遺産を知ってもらう <p>5 ほめて、気づかせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づいていない人が多い ・気づきが必要 ・ほめて残す ・敷居を低くする ・所有者のメリットを示す <p>6 気づきのぶらぶら歩き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきのしかけとしてウォーキングや会合 ・ぶらぶら歩く ・JRのさわやかウォーキングとコラボする ・話を聞きながら、ぶらぶら歩く <p>7 町内会など周囲も巻き込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を持つ参加の機会づくり ・個から地域へ ・そこにあることに気づく ・町内会の会合に出掛け、建物の良さを知らせる ・建物に興味を持ってもらう ・住宅、住んでいる人を巻き込む ・本人も町の人も大切にしたいと思う ・町の人が頑張る、参加する 	<p>1 壊される・解体される</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り壊されたら再現できない ・放置される <p>2 使いまわす</p> <p>3 価値が認められず残そうとする意識がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着が無い ・価値が認められない ・今の家を継続居住しようと思わない ・家を残していこうと思わない ・価値評価の低下 <p>4 女性(主婦)の一言で解体決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活様式や家族構成への対応になじまない ・若い世代からの需要が無い ・今の家族構成で家を建てる ・暮らしの変化による解体 ・古いものは価値あるものでない ・時代の違い ・年代の違い <p>5 最近の住宅は文化財にならない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから造る住宅は文化財にならない ・長期優良住宅は古民家では無い ・古民家は長期優良住宅 <p>6 住宅ハウスメーカーの需要が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通の家はハウスメーカーの家 ・法律がハウスメーカー向きになっている ・ハウスメーカーの営業 <p>7維持のための制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度など

<p>8 多様な保全修理の方法がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物により保存方法が違う ・修理の方法 ・登録文化財にしていく <p>9 人育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を育てる ・見る目を養う、手仕事を覚える ・人材育成にはコストがかかる ・建築士が全て把握する 	
--	--

②平常時のこれが一番だと思う取組方法 意見まとめ

項目	内容
1-1 正しい工法・大工技術を伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・技術が無くなる ・技術が残らない ・今の技術と昔の技術が違う ・技術を残したい ・道具が使えない
1-2 金物は使用禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・金物を使用してはいけない ・木と鉄（釘は抜ける。ビスは折れる）
1-3 職人の後継者問題	<ul style="list-style-type: none"> ・職人の価値が低い ・代替わりの時期
2-1 材料だけでも残したい	<ul style="list-style-type: none"> ・直したくても材料がなければ直せない ・状態の良い部分のみ転用 ・木材など材料が無くなる
2-2 木材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・天然林と人工林の差 ・伐採禁止
3 道具の収集と保存	<ul style="list-style-type: none"> ・大工道具集め ・道具が無い、使えない
4 記録として残す	<ul style="list-style-type: none"> ・調査後、図面化、写真、ヒアリングを行い記録する

③非常時の取組の解決方法

項 目	内 容
1 日頃から情報を共有化	日常的に存在等を認知し、価値情報などを共有化する 普段から見たり、話したりして、建物の被災状況を把握する 現場に行く 普段から、価値を共有する 建物リスト化 事前調査しリスト化
2 事前の組織化と連携対応	地元以外の建築士の応援グループを確保する 同業者や第三者の組織化 レスキュー隊グループの編成 他地域の被災調査連携を決めおく 再建員会の設置
3 多くの人を巻き込む	地元建築等が被災者で動けない 専門家でなくても、近くの方や自主防災、ボランティアなどが確認も 行政に情報を流す
4 確認する人を集める工夫	近隣とのネットワーク化や範囲を決める 事前に確認する人を決定。グループ化する。その後、情報収集
5 段階別被害調査の実施	1次マニュアル～2次マニュアル～分担準備 各段階のチェックシートによる判断 保全など必要のあるものは、再調査 情報をすべて集めてから判断→非常時、間に合うのか
6 連絡のスピード、対応力の強化	業者手配 直すめどを早く知らせる
7 所有者の意向	普段からの関係づくり 非常時には誰かが伺う安心感 「必ず建物は直す」ことの周知 所有者の意思確認
8 基準づくり	文化財、準文化財、その他の基準 登録文化財指定
9 非常時に気にしないようにしておく	耐震性などの手立てを打っておく
10 職人を育て、道具の確保	—
11 材料の確保	—
12 古建築物を解体しないための補助金制度	行政に頼らないことも 磐田市の補助制度 300万円 民間財団の活用

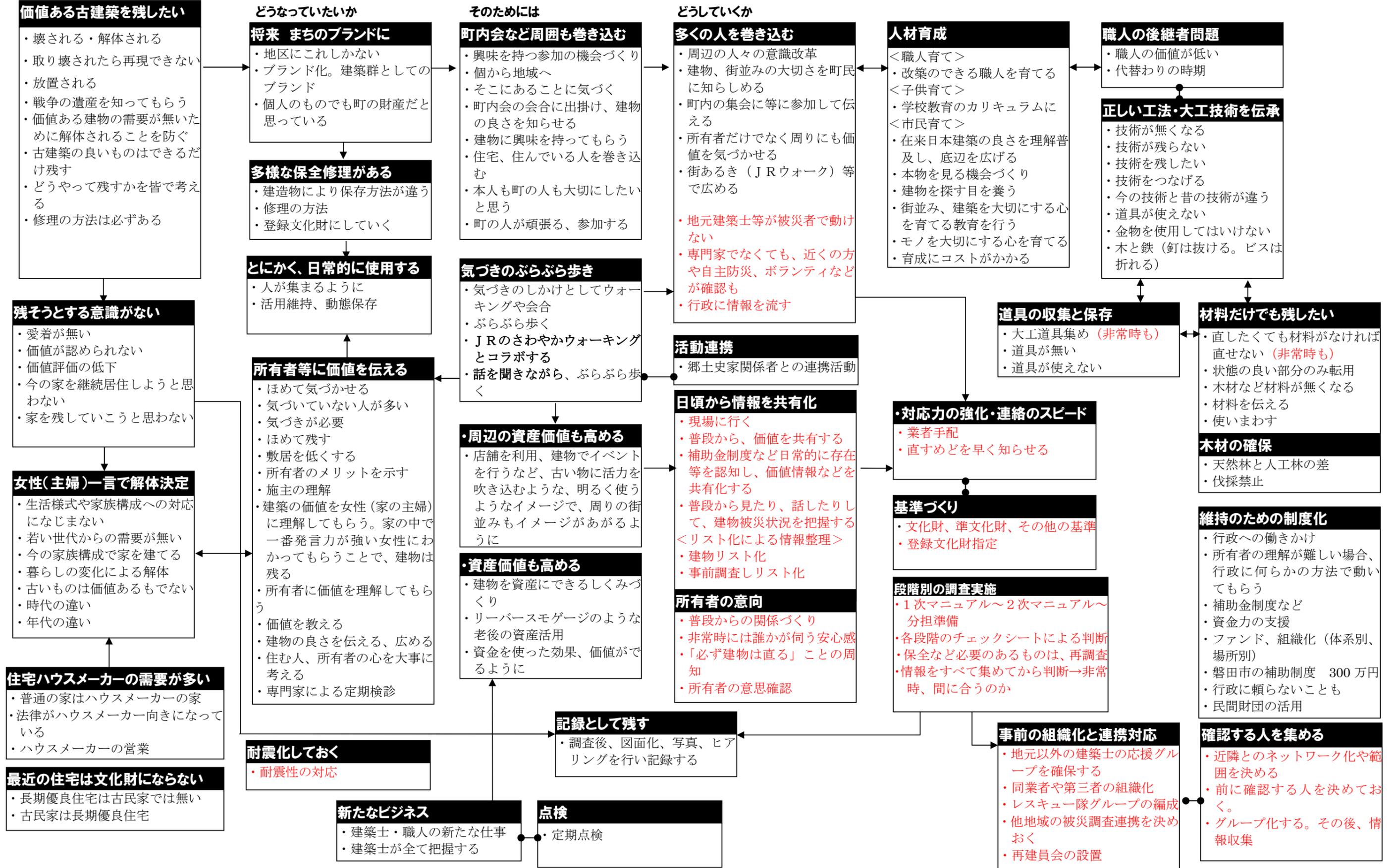
④一番大切だと感じた取組

●は特に取組みたいグループ意見

項 目	内 容
良いものは残したい	<p>価値ある建物の需要が無いために解体されることを防ぐ</p> <p>古建築の良いものはできるだけ残す</p> <p>どうやって残すかを皆で考える</p> <p>●修理の方法は必ずある</p>
所有者の理解	<p>●気づき、ほめる</p> <p>ほめる、おだてる</p> <p>施主の理解</p> <p>建築の価値を女性（家の主婦）に理解してもらおう。家の中で一番発言力が強い女性にわかってもらうことで、建物は残る</p> <p>所有者に価値を理解してもらおう</p> <p>価値を教える</p> <p>建物の良さを伝える、広める</p> <p>住む人、所有者の心を大事に考える</p> <p>専門家による定期検診</p>
周辺も巻き込む	<p>●周辺の人々の意識改革</p> <p>建物、街並みの大切さを町民に知らしめる</p> <p>町内の集会に等に参加して伝える</p> <p>所有者だけでなく周りにも価値を気づかせる</p> <p>街あるき（JRウォーク）等で広める</p>
技術の伝承	<p>建物を残すために、技術をつなげる、材料を伝え</p>
新たなビジネス	<p>建築士、関係者の仕事につなげる</p>
人材教育(所有者、建築士、職人、近隣住民、子ども教育)	<p>改築のできる職人を育てる</p> <p>●学校教育のカリキュラムに</p> <p>在来日本建築の良さを理解普及し、底辺を広げる</p> <p>本物を見る機会づくり</p> <p>建物を探す目を養う</p> <p>街並み、建築を大切にする心を育てる教育を行う</p> <p>モノを大切にする心を育てる</p>
行政支援	<p>官公庁への働きかけ</p> <p>所有者の理解が難しい場合、行政に何らかの方法で動いてもらう</p> <p>補助金</p>
活動連携	<p>郷土史家関係者との連携活動</p>
資産価値を高める	<p>建物を資産にできるしくみづくり</p> <p>リーバースモゲージのような老後の資産活用</p> <p>資金を使った効果、価値がでるように</p>
周辺の資産価値も高める	<p>店舗を入れたり、建物でイベントを行うなど、古い物に活力を吹き</p>

	込むような、明るく使うようなイメージで、周りの街並みもイメージがあがるように
保全・維持、活用の費用	資金力を支援する ファンド、組織化（体系別、場所別） 行政の補助金

●第1回 ワークショップの意見の整理 (赤字非常時の取組)



10 ワークショップの様子

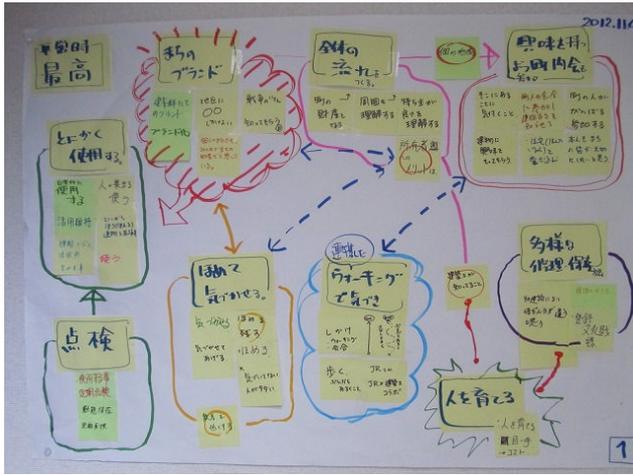
● 景観整備機構副代表あいさつ



● 意見交換の様子



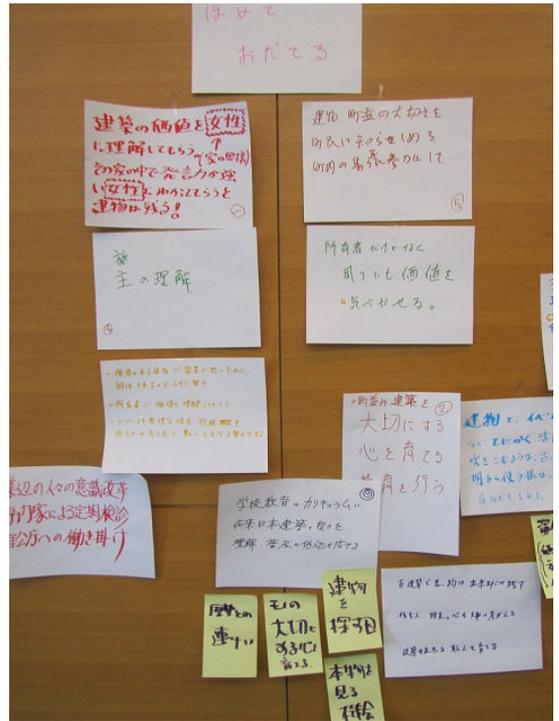
● 平常時の取組意見の摸造紙



● 非常時の取組意見の摸造紙



● 一番取組みが必要だと思う意見



H24 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査

11月4日(日)

グランシップ 1003 会議室

午後1時30分～午後4時30分

高め
合う

つな
がり
合う

語り
合う

参加無料

先着 30名

歴史的建造物を 維持・保全・活用していくためには、どうしたらいいでしょうか？

今までに無い、
意見交換が始まる！
建築士 & 関係者が
ともに、解決策を考える。

(公社)静岡県建築士会は、今年度国土交通省から委託を受け、「歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査」を進めています。歴史的建造物の維持・保全・活用のために市民、専門家、職人、行政等との連携によるネットワークづくりと、平常時・非常時における歴史的建造物の保全等に関する対応していく体制づくり・拠点づくりを積極的に進めていくことを目的としています。

申込み受付中

参加ご希望の方は必要事項を記入の上 FAX・e-mailで申込みください。

●申込み必要事項

名前(ふりがな)	所属(建築士は所属ブロック名)
連絡先 電話・e-mail	

申込先 (公社)静岡県建築士会 景観整備機構
FAX 054-273-0478 e-mail honkai@shizu-shikai.com

平成 24 年度 歴史まちづくりのネットワーク構築検討調査 ワークショップ実施報告2

1 実施日時 平成 24 年 12 月 22 日（土） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

2 場 所 グランシップ 1101 会議室

3 参加数 10 人（このうち職人 3 人大工、瓦職人）

4 目 的 マニュアル作成に反映させていくためのワークショップ形式の意見交換を実施した。

5 ワークショップのテーマ

第 2 回のテーマ 「マニュアルの掲載内容には何が必要でしょうか？」

6 当日のワークショップ

7 進め方

時 間	内 容
1 : 30	オープニング あいさつ
1 : 35	前回のふりかえり
1 : 50	進め方とアイスブレイク
2 : 05	【全体】 マニュアルはどのように使いますか？ 「ふりかえり内容」を踏まえた検討（誰が、どこで、どのように）
2 : 25	【グループ別①】 マニュアルはどのような内容がいいでしょうか？（平常時）
3 : 05	【全体】 グループ別発表
3 : 25	【グループ別②】 マニュアルはどのような内容がいいでしょうか？（非常時）
4 : 05	【全体】 グループ別発表
4 : 15	まとめ
4 : 25	事務連絡
4 : 30	クロージング あいさつ

8 ワークショップの意見まとめ

(1) マニュアルについて

① どんなマニュアルにしたらよいか

- ・誰もがわかりやすい平易な言葉で
- ・心構え（所有者の意思を尊重、残す思いを伝える）
- ・対象建造物の定義を記載
- ・景観形成への気遣い、配慮
- ・持ち歩くことも考え、コンパクトに
- ・紙ベース、PDF 処理などデータ化
- ・行動の段階別に内容記載→応急危険度判定士の手帳に記載できるか？
- ・応急危険マニュアル（浜松市、袋井市）が参考に

② 誰がもつか、どこに置くか

- ・建造物所有者（価値共有、日頃の手入れ）
- ・行政（防災局）
- ・関係者の手元
- ・避難所（県外支援者の誰でも見ることができる）

③ 保持者の資質向上

- ・歴史的建造物の知識のある人
- ・日頃からのスキルアップが必要
- ・職人技を知り、活用する（ステップアップ研修、実践講習でも行う）

④ 情報共有

- ・職人、行政、地域住民、建築士が共有する→地域の人たちが興味を持つ→地域のシンボル（誇り）となる
- ・歴史的建造物のマップ化、リスト化
- ・建築士、瓦職人等とのネットワークリストの共有
- ・個人情報の扱いをどうするか（所有者に確認→情報公開できる範囲を確認）
- ・瓦職人組合 110 社と情報共有 全国対応新聞 3 回/月情報提供

⑤ 職人・建築士等の専門家の連携活動

- ・専門家が連携した協定書→県民に存在を認知
- ・ヘリテージマーク（色別で組織・団体が識別）
- ・活動の見える化（同じマーク、ジャンパー、シール、ステッカーなど）
- ・瓦組合（ブルーシートではなくイエローシートの検討、
- ・非常時など専門外に対応（他の専門家がわかりやすい、協力してもらえる）

⑥ SHEC の信頼性（構成委員の質、スキル）・認知性

- ・信頼できる人材（IDカード、共通ジャンパーなど）

(2) マニュアルの内容の意見整理

活動時期別	内容	キーワード
平常時	●平常時の備えづくりは、顔の見える関係づくりから	
準備期 ～活動期	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りになる ・異業種交流会（情報交換） ・所有者から建造物の登録 ・所有者への説明と理解、町内会にも ・所有者との協力体制づくり ・メンテナンスの心得 ・図面・文章 ・基礎資料づくり 施工の統一、単価の統一 ・判定チェックリスト ・調査内容のチェックリスト（フォーマット化）、常時確認 ・歴史的建造物のリスト化、マップ化 ・定期点検カルテ作成 ・非常時の窓口のリストアップ ・協力依頼、業界の承知、関係団体の把握 ・組織図 ・建築士、職人、所有者の意識共有化 ・連絡網、組織への連絡 ・年2～3回小中学生含め建物パトロール ・セミナー、講習会によるステップアップ ・調査委員の身分表示、服装、ヘリテージマーク等の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係 ・調査委員の身分証 ・理解と協力 ・基礎資料作成 ・各種チェックリスト ・リスト化・マップ化 ・連絡網構築 ・スキルアップ講習等 ・関係者を広げ・つなげる ・子どもを巻き込む
非常時	●事前準備資料をフル活用し、専門家・行政相互の活動(円滑化と見える化)	
発生時 初動期	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員の安否確認 ・調査者のグループ分け（建築士、大工等の職人） ・事前に決めた範囲で調査開始 ・担当エリア、初動のエリアを決めておく ・色別ヘリテージマークで活動団体の把握と協力 ・被災地外から専門職人の手配 ・公費解体を引き延ばし ・写真メールで状況報告（共有化） ・良くない例を記載 ・周辺基盤調査（ライフラインなど作業できる状況の把握） 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口設置 ・人員の確保 ・調査区域の確認、人員配置 ・外部関係者の手配 ・的確な情報把握と情報共有
活動期	<ul style="list-style-type: none"> ・応急危険度判定後の状況調査 ・シール貼り付け ・建築士、職人がグループになり被害状況を把握する ・修復などの専門家紹介 ・車両使用など道路使用の許可を取る ・具体的な図面や写真 ・特に火災について 	<ul style="list-style-type: none"> ・異業種のグループ化 ・専門家紹介 ・周辺基盤調査

③一番大切だと思ったこと

- ・所有者の理解（登録リスト、残していくことに対して）
- ・非常時に動けるように平常時から備えをしておく
 - ↓登録建造物のリスト化・マップ化
 - ↓顔の見えるネットワーク化
 - ↓次の段階
- ・異業種との交流を事前に持っておき、人と人とのつながりを大切にする
- ・細かなネットワーク（顔見知りの関係性、定期点検等で交流）
- ・チェックリストとスキルアップ
- ・技術の伝承
- ・継続的な研修、ステップアップ
- ・組織図
- ・平常時にリストを確認しておく。異業種間の相互の理解を深めるために平常時に活動しておく。

■マニュアル作成に向けたキーワード

所有者の理解

登録建造物のリスト化・マップ化、チェックリスト

平常時からの備え

顔見知りの関係性、組織化

スキルアップ、技術の伝承

9 意見整理

●ワークショップ・協議会等意見内容からのネットワーク構築課題

(赤字は第2回WS、協議会を踏まえた整理)

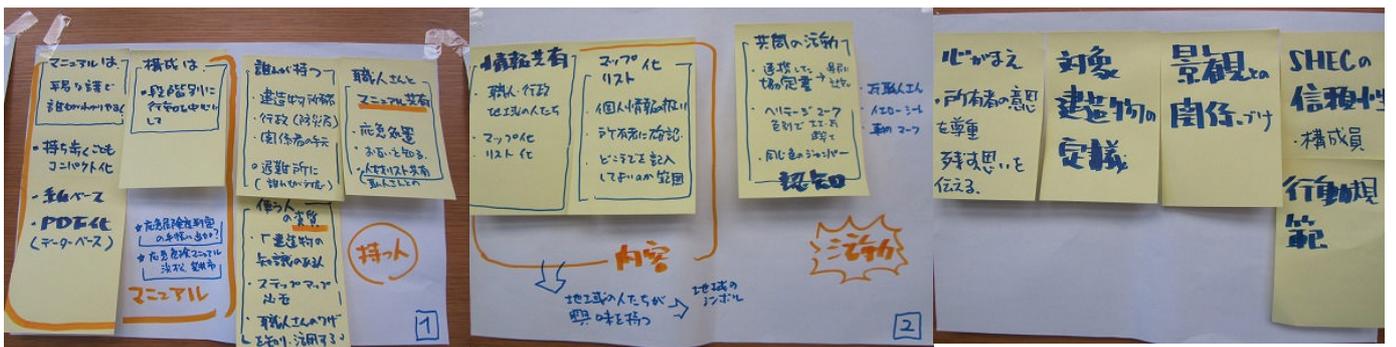
区分	専門家等が		市民が		行政が	ネットワーク構築に向けた課題	
	A建築士	B職人等	C所有者	D地域	E建築行政・景観行政・教育委員会		
専門家等に	建築士	A1 歴史的建造物専門育成 A2 人・情報の拠点形成とネットワークの構築 A3 新たなビジネスモデルの創出 (生活様式に合う改修等) A4 県外のヘリテージセンターとの連携強化	B1 情報の共有化 B2 活動連携のしくみづくり B3 人材リスト等共有 B4 地域文化財研修等の実地講師(相互が技術理解) B5 応急処置方法	C1 日頃から情報入手、関係性を高める C2 耐震診断・改修等依頼	D1 まち歩き等による歴史的建造物等の把握と地域景観育て D2 防災まちづくりへの取組強化 D3 森育て(木材等の確保)	E1 専門家育成の講座開設、教材作成 E2 建造物の基準づくり(文化財、準文化財等) E3 文化財レスキュー等との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ●平常時から顔の見える関係者間の構築と関係性の強化 ●地域や多くの人を巻き込む啓発活動 ●歴史的建造物の価値の共有化 ●情報の共有化 (建物リスト・マップ作成、記録、定期的な調査、見守り) ●専門家育成(研修講座、応急措置体験研修) ●相談窓口の設置 ●信頼性のある活動組織としてのイメージづくり(専門家の統一マーク、身分証、情報提供)7 ●非常時の円滑な活動のための基礎資料作成(チェックリスト、調査エリア、グループ分け) ●スキルアップ 【非常時】 ●情報連絡(関係者間、行政、所有者) ●組織内緊急体制、グループ編成、調査区域 ●現場確認(建物マップ整備、チェックリスト) ●他県、県内ブロックからの支援受け入れ体制 ●応急措置の連携活動 ●応急危険度判定士との連携活動 ●外部支援者等の受け入れ体制
	職人等	A5 顔の見える関係構築 A6 応急処置の体験	B6 工法・技術の伝達等の後継者育成 B7 道具の収集・保全活動 B8 建材等確保や使い回し B9 職人間の広域連携				
市民に	所有者	A7 信頼関係の構築(身分証、ヘリテージマーク等) A8 価値の共有化のための啓発活動 A9 意思決定権主婦への啓発 A10 定期的診断の整備 A11 図面・ヒアリング等による記録整理・保存 A12 窓口存在を認知する情報提供	B10 信頼関係の構築(共通したマークや身分証等)	C3 家族の対話 C4 資産価値向上への働きかけ		E4 情報提供・啓発活動 E5 資金等の支援の制度化(磐田市の例)	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的建造物の価値の啓発(市民向けの講座等の啓発活動) ●所有する歴史的建造物の価値を理解(地域景観・シンボル等貢献、資産価値向上につなぐ) ●ヘリテージセンターの存在価値を高める
	地域	A13 地域の郷土史家等との連携活動 A14 市民・子どもへの啓発活動	—	C5 地域景観形成に向けた貢献活動	D4 地域で見守り D5 地域のシンボル・ブランド化への取組 D6 地域の価値向上への取組	E6 情報提供・啓発活動	
行政に	建築行政・景観行政・教育委員会	A15 信頼関係の構築(協議会の継続) A16 県下への普及 A17 建物・人材リスト等の共有化 A18 応急危険度判定における歴史的建造物の扱い	B11 信頼関係の構築 B12 県内人材リスト化	C6 相談窓口の明確化 C7 情報提供 C8 相続、固定資産等負担軽減	D7 情報提供	E7 広域行政の連携化 E8 情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ●県市町の連絡協議の組織化 ●必要な資料収集、加工作成(建物リスト、人材リスト) ●応急危険度調査との連携(1次、2次) ●建物保存の基準整理 ●専門家の連携による協定書

10 ワークショップの様子

● 景観整備機構副代表あいさつ



● 意見交換の様子



●グループ別の発表



●グループ別の意見の摸造紙



●一番取組みが必要だと思う意見



